

論理学		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位（30時間） 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：吉田 千鶴子（元高校教師）			
分野 基礎分野 科学的思考の基盤			
学習目標 1 論理的思考、読解力、文章力を習得する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション、なぜ文章表現か	講義	
2 (2)	表現のルール（主-述を明確に） 他	講義	
3 (2)	〃 助詞「は」「が」の性格2	講義	
4 (2)	〃 助詞「が」の性格3	講義	
5 (2)	表現のルール2～6	講義	
6 (2)	〃 、話すように書くは間違い	講義	
7 (2)	既習事項の確認（論理の必要性について）	講義	
8 (2)	論理の規則と論理展開法について	講義	
9 (2)	論理展開法の実際（性悪説を通して）	講義・演習	
10 (2)	既習事項の確認2（論理の展開等について）	講義・演習	
11 (2)	論理的文章を書く1	講義・演習	
12 (2)	先週の文章表現についての反省等	講義・演習	
13 (2)	敬語法概説	講義・演習	
14 (2)	論理文を書く準備、演習	講義・演習	
15 (2)	論理文を書く、演習	演習・試験	
成績評価方法		出席状況・小論文	
テキスト・参考書		講師作成	
その他			

物理学		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：2単位（30時間） 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：根本 雄司（臨床工学技士）			
分野 基礎分野 科学的思考の基盤			
学習目標 1 看護に必要な物理学の知識を学び、エビデンスに基づいた看護技術につなげる。 2 物理的な考え方、ものの見方ができる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	物理の概論、基礎的な論理、 心電図モニターのモードから物理を説明	講義	
2 (2)	共通の物差し、組み立て、単位、紛らわしい話、力の種類、 フックの法則、圧力と私たちの生活	講義	
3 (2)	1気圧、ヘクトパスカル、水の深さと圧力の関係、 気圧と呼吸の関係、 点滴の原理、点滴静脈内注射針にかかる圧力	講義	
4 (2)	圧力の件、血圧計について、観血血圧と吸引圧について	講義	
5 (2)	浮力、身体の密度、ベクトルと加え算、回転力、てこ、天秤、 滑車について	講義	
6 (2)	ボディメカニクス（重心と安定・姿勢と緊張、高さと安定性） 摩擦力、表面張力、仕事とエネルギー	講義	
7 (2)	仕事量と工率、振動について	講義	
8 (1)	音波と超音波について	講義	
9 (1)	中間試験	試験	
10 (2)	光、ドップラー効果、照度について、中間試験の模範解答	講義	
11 (2)	光の屈折とレンズについて、 全反射と光を遠くに送るケーブルと鏡について、		
12 (2)	かみなり・アースについて、 マクロショック、マイクロショック、直接交流の説明	講義	
13 (2)	電気メス、電池、抵抗の性質、コンデンサーの性質について	講義	
14 (2)	トランジスター、変圧器、整流器、超電導について 熱の物理学での考えた方と原子・分子量について	講義	
15 (2)	熱量・身体の冷却、物質の状態・変化について	講義	
16 (1)	湿度・熱の伝わり方、人間のエネルギー代謝について	講義	
17 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法		筆記試験（中間・終講試験）	
テキスト・参考書		前田昌信：看護にいかす物理学，医学書院	
その他			

<b>情報科学</b> 担当：吾妻 敬也（会津大学院生）		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位（30時間） 開講形態：講義・演習 週割当時間：3時間	
分野 基礎分野 科学的思考の基盤			
学習目標 1 情報科学の基本的知識を理解する。 2 コンピューターの基本的機能について理解する。 3 看護における情報処理の実際を知る。 4 ICT（情報通信技術）を活用するための基本的知識を理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (3)	情報の定、Google アカウントの作成	講義・演習	
2 (3)	コンピュータのしくみ、インターネットについて Word の使い方	講義・演習	
3 (3)	医療看護における個人情報情、情報文献検索、 メールの書き方、Excel の使い方	講義・演習	
4 (3)	医療情報システムについて、インターネットにおける 注意と自衛、ケーススタディについて	講義・演習	
5 (3)	Power Point について	講義・演習	
6 (3)	ICT（情報通信技術）とは？	講義・演習	
7 (3)	ICT を実践してみよう	講義・演習	
8 (3)	試験、スライド印刷方法	演習	
9 (3)	試験返却、プレゼンテーション発表（1～20 番）	試験・演習	
10 (3)	プレゼンテーション発表（21～40 番）	演習	
成績評価方法 筆記試験・実技 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 基礎分野 情報科学 その他			

<b>倫理学 医療倫理</b> 担当：渡部 栄子（看護師） 会津中央病院他で 36 年の実務経験 根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で 13 年の実務経験		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位30時間（15時間） ＊看護倫理 15 時間と合わせて 30 時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 基礎分野 科学的思考の基盤			
学習目標 1 物事の価値体系や諸説を学び、望ましい医療人としての倫理観を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (2)	生命倫理の流れ	講義	
2 (2)	はじめに、生命誕生と医学の介入	講義	
3 (2)	再生医療、生を断つことへの医学の介入	講義	
4 (2)	死への医学の介入	講義	
5 (2)	脳死、殺人、安楽死、尊厳死	講義	
6 (2)	尊厳死、医療と宗教、ターミナルケア	講義	
7 (2)	死の臨床、インフォームドコンセント	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 試験 テキスト・参考書 塩野 寛・清水 恵子：生命倫理への招待．南山堂 その他・			

倫理学 看護倫理		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位30時間（15時間） *医療倫理15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：二瓶キヨ子（専任教員） 会津中央病院で12年の実務経験			
分野 基礎分野 科学的思考の基盤			
学習目標 1 倫理学に関する原則的概念や理論を理解し、看護師としての倫理的責任と役割を探求する。 2 看護師が専門的分野において倫理的な問題、葛藤を認識し解決調整をするための能力を養う。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	倫理とは何か 倫理と道徳 道徳と法 事例1 授業の代返	講義	
2 (1)	事例2 家族の思いと価値観 価値観形成に影響するもの	講義	
3 (2)	看護倫理の歴史的推移 「徳の倫理」「倫理原則」 事例3 赤ちゃんとの面会を望む患者	講義	
4 (2)	倫理的ジレンマ 意思決定のためのモデル（4ステップ） GW 発表	講義・GW	
5 (2)	倫理に関係する言葉 患者の権利 リスボン宣言	講義	
6 (2)	倫理に関係する言葉 インフォームドコンセント 事例4 守秘義務	講義	
7 (1)	社会からみた看護	講義	
8 (1)	看護は専門職 専門職の基準「看護者の倫理綱領」	試験	
9 (2)	DVD 「my sister's keeper」	DVD	
8 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 終講試験			
テキスト・参考書 塩野 寛・清水 恵子：生命倫理への招待. 南山堂 配布資料等			
その他			

社会学 I		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位（15時間） 開講形態：演習 週割当時間：4～7時間	
担当：二瓶 キヨ子（専任教員）			
分野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 会津の自然、歴史、社会について理解し、地域で生活している人々について理解する。 2 地域で暮らす人々を取り巻く環境を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (4)	会津の自然、歴史について学ぶ	GW	
2 (6)	会津市内にフィールドワークを行う。 自然、歴史を学ぶ 生活者の視点で地域をみる	フィールドワーク	
3 (5)	まとめ	GW 発表	
成績評価方法		レポート 態度	
その他			

<b>社会学Ⅱ</b> 担当：佐々木 篤信（大学名誉教授）		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：2単位30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 社会の成立と構造機能について学び集団と個人の関わり、社会的存在としての人間の意識と自覚を理解する。 2 家族を通して社会学的な思考の基礎を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	社会を科学する、事実の基づき深く理解する	講義	
2 (2)	社会学とは何か、A. コントの社会、現代の社会	講義	
3 (2)	家族 (1) 家族の構造と機能 先端技術の光と影	講義	
4 (2)	家族 (2) 結婚 (制度と現実・課題)	講義	
5 (2)	家族 (3) 家族の絆を考える ①障がい者のいる家族 ②健常者家族の虐待	講義	
6 (2)	地域社会 (1) 地域と看護 ①介護保険の今 ②多重介護の現状	講義	
7 (2)	地域社会 (2) 環境 ①環境基本法 ②原発事故と環境	講義	
8 (2)	地域社会 (3) 環境 ①究極の廃棄物への対応②自治体の取り組み	講義	
9 (2)	職場 (1) 労働の意義 ポジティブな側面、プロフェッショナル	講義	
10 (2)	職場 (2) 労働のポジとネガ ①クリティカルケア②現場に見えるネガティブな現実	講義	
11 (2)	職場 (3) 危機を乗り越える ①職場・仕事の危機②人生の危機	講義	
12 (2)	現代社会 (1) 現代社会と心の病 「解離性同一性障」	講義	
13 (2)	現代社会 (2) 社会的少数者一性的マイノリティを考える	講義	
14 (2)	現代社会 (3) 社会的ひきこもり、自殺、無縁社会を考える	講義	
15 (1)	現代社会 (4) 危機管理を考える	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 基礎分野 社会学 その他			

<b>人間関係論</b> 担当：二瓶 重和（公認心理士）		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位15時間 開講形態：講義 演習 週割当時間：2時間	
分野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 よりよい人間関係を築くための考え方や行動の仕方について理解する。 2 人間関係の重要性について理解し、人間関係を大切にできる心構えができる。 3 人間関係を円滑に保つさまざまな技法について学び、自己の成長と、良好な対人関係に役立てることができる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	出会い①；自己理解・他者理解 (ニックネーム～他者紹介～自己紹介リレー)	講義・演習	
2 (2)	出会い②；自己理解・他者理解・挨拶のスキル (街角ウォーク～トラストウォーク～他者紹介)	講義・演習	
3 (2)	自己理解・他者理解 (あなたはどんな人ですか？～コロコロトーク)	講義・演習	
4 (2)	頭と心の冒険 (マッチ棒クイズ～タングラム～トラストアップ)	講義・演習	
5 (2)	頭と心の冒険、自己理解 (ヘリウムフープ～トラストアップ～エゴグラム)	講義・演習	
6 (2)	SST (傾聴・非傾聴体験、かかわりのスキル) (聴いてください～買い物ごっこ～ステキだね)	講義・演習	
7 (2)	頭と心の冒険、集団効力感 (どうぞ・ありがとうゲーム～トラストアップ)	講義・演習	
8 (1)	自己理解・ストレスマネジメント (HSPチェック、とけあい動作法)	試験	
成績評価方法 試験 テキスト・参考書 その他			

心理学		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数1単位（30時間） 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：田中 多恵（臨床心理士）			
分野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 人間の行動、成長発達に関する心理的現象を学び人間理解、自己理解を深める。 2 カウンセリング技法を身につけ患者理解の基礎的能力を習得する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	心理学の歴史	講義	
2 (2)	性格について（類型論、性格の形成、性格検査）	講義	
3 (2)	適応について（適応・不適応、自己意識の発達、環境）	講義	
4 (2)	適応②（ストレス・欲求、PTSD、防衛機制）	講義	
5 (2)	感情・情緒について（多彩心理、情緒の発達、理論）	講義	
6 (2)	学習（学習の理論、古典的条件づけ、オペラント条件づけ）	講義	
7 (2)	学習について、記憶について（短期・長期記憶）	講義	
8 (2)	記憶（忘却の過程）記憶の関連（発達障害、自閉症/AD/HD）	講義	
9 (2)	知能について（知能の発達、知能検査）	講義	
10 (2)	知能について（知能検査②）、思考について（思考の発達・異常）	講義	
11 (2)	発達について（発達段階・課題・乳幼児期・児童期について）	講義	
12 (2)	発達について（児童期・青年期）	講義	
13 (2)	発達について（壮年期・老年期）、集団について①	講義	
14 (2)	集団について②、復習	講義	
15 (1)	カウンセリングについて	講義	
16 (1)	終講試験	試験	
学習（学習とは、条件づけ、影響する条件） 成績評価方法 レポート・終講試験  テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 基礎分野 心理学  その他			

音楽		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位（30時間） 開講形態：実技 週割当時間：2時間	
担当：五十嵐 理奈子（元高校教師）			
分野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 情操を豊かにし、個々の持つ感性を磨き、創造性・協調性を習得する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	校歌 歌唱「花は咲く」	実技	
2 (2)	鑑賞「アナと雪の女王」	実技	
3 (2)	校歌 鑑賞ミュージカル「マリーアントワネット」	実技	
4 (2)	校歌 リトミック、音楽療法	実技	
5 (2)	校歌 リトミック、音楽療法	実技	
6 (2)	校歌 絵本「あらしの夜に」 合唱	実技	
7 (2)	校歌 歌唱「花は咲く」 西洋音楽史	実技	
8 (2)	校歌 歌唱「花は咲く」 西洋音楽史	実技	
9 (2)	宮沢賢治と音楽 ピーターと音楽	実技	
10 (2)	世界の音楽、様々な時代の音楽 ～クラシック誕生から令和まで～	実技	
11 (2)	世界の音楽、様々な時代の音楽 ～クラシック誕生から令和まで～	実技	
12 (2)	校歌 リトミック、音楽療法	実技	
13 (2)	鑑賞「ハイスクール ミュージカル」	実技	
14 (2)	鑑賞「アトランティス」	実技	
15 (2)	おばけマンション リクエスト曲鑑賞	実技	
成績評価方法 実技試験 テキスト・参考書 配布資料 その他			

英 語		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位（30時間） 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：手代木 Troy 香（元大学講師）			
分 野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 英作文、看護場面における英語表現力を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (2)	Roleplay - greeting patient, asking questions.	講義	
2 (2)	Are you/Do you have_? Roleplay.	講義	
3 (2)	Phrase Sheet ; Hand back exams; Translate hw ; review	講義	
4 (2)	Blood test, Roleplay. Review symptoms	講義	
5 (2)	Translation ; floors;departments	講義	
6 (2)	Review ; Offering things ; roleplay	講義	
7 (2)	Blood pressure Roleplay ; relaxing the patient.	講義	
8 (2)	Asking questions(homework); “When did the pain start?”~ago etc.	講義	
9 (1)	Lifestyle questionnaire ; How many , How much ; How often	試験	
10 (2)	Pain ; Reasons for pain ; Role Play ; New sheet “It'll be all right”	講義	
11 (2)	Swollen~ ; Recently past perfect ; symptoms ; Role play.	講義	
12 (2)	Symptoms ; How is your symptom? Role Play ; review.	講義	
13 (2)	Review, Internal organs.	講義	
14 (2)	External organs ; body parts ; review ; basic illnesses.	講義	
15 (2)	Oral Role - play Test.	講義	
16 (1)	Final exam.	試験	
成績評価方法 筆記試験（終講試験）			
テキスト・参考書 仁木久恵・助川尚子：臨床看護英語. 医学書院 株式会社メディアパーク：実践ナースのための英会話			
その他			

体 育		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位（30時間） 開講形態：実技 週割当時間：2～3時間	
担当：高杉 勝（高校教師）			
分 野 基礎分野 人間と生活・社会の理解			
学習目標 1 運動の必要性を理解し、心身の健康の保持増進をはかる。 2 協調性・主体性を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (2)	球技 バスケットボール	実技	
2 (2)	球技 バスケットボール	実技	
3 (2)	球技 バスケットボール	実技	
4 (2)	球技 バスケットボール	実技	
5 (2)	球技 バレーボール	実技	
6 (2)	球技 バレーボール	実技	
7 (2)	球技 バレーボール	実技	
8 (2)	球技 バレーボール	実技	
9 (2)	バトミントン	実技	
10 (2)	バトミントン	実技	
11 (2)	バトミントン	実技	
12 (2)	バトミントン	実技	
13 (2)	球技 バスケットボール	実技	
14 (2)	球技 バレーボール	実技	
15 (2)	球技 バレーボール	実技	
成績評価方法 出席状況・実技			
テキスト・参考書			
その他			

<b>解剖学</b>		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：2単位 45時間 開講形態：講義 週割当時間：3～4時間	
担当：西山 慶治（大学教授）			
分野 専門基礎分野 人体の構造と機能			
学習目標			
1 人体の構造と機能を系統立て理解する。			
2 生命現象の基本である呼吸、循環、体温の仕組みを知りバイタルサインを読み取ることができる。			
3 人体の内部変化や外部の環境変化があっても身体が健康体であるように常に一定の恒常性を保つための仕組みを理解する。			
4 人体の構成成分である化学物質、分布と代謝について理解する。			
5 生体が正常な営みをするために必要な栄養に関する基礎的知識を学ぶ。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (3)	解剖学総論・発生学・細胞組織学	講義	
2 (3)	骨学1	講義	
3 (3)	骨学2・筋学	講義	
4 (4)	筋学	講義	
5 (4)	循環1	講義	
6 (4)	循環2	講義	
7 (4)	消化器	講義	
8 (4)	呼吸器	講義	
9 (4)	泌尿・生殖器	講義	
10 (4)	内分泌	講義	
11 (4)	神経	講義	
12 (3)	感覚器	講義	
13 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法		筆記試験	
テキスト・参考書		医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 藤田恒夫：入門人体解剖学. 南江堂	
その他			

<b>生理学</b>		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：2単位 45時間 開講形態：講義 週割当時間：3時間	
担当：挟間 章博（大学教授）			
分野 専門基礎分野 人体の構造と機能			
学習目標			
1 人間の身体の構造と機能を系統立てて理解する。			
2 生命現象の基本である呼吸、循環、体温の仕組みを知りバイタルサインを読み取ることができる。			
3 人体の内部変化や外部の環境変化があっても身体が健康体であるように常に一定の恒常性を保つための仕組みを理解する。			
4 人体の構成成分である化学物質、分布と代謝について理解する。			
5 生体が正常な営みをするために必要な栄養に関する基礎的知識を学ぶ。			
回数及び 時間	授業内容	方法	備考
1 (3)	細胞の構造と機能、体液の組成・役割、血液の成分と働き	講義	
2 (3)	呼吸概論、呼吸運動、肺気量分画、ガス交換	講義	
3 (3)	ガス運搬、肺循環、呼吸調節、循環概論	講義	
4 (3)	心臓と血管の機能、心周期、心拍出量と静脈還流、血圧	講義	
5 (3)	血圧について、微小・局所循環、血圧調節（短期・長期）	講義	
6 (3)	神経系1（神経一般、筋収縮）	講義	
7 (3)	神経系2（中枢神経・末梢神経）	講義	
8 (3)	内分泌1（概論、視床下部、下垂体、甲状腺）	講義	
9 (3)	内分泌2（睪・副腎）、生殖（性ホルモン）	講義	
10 (3)	腎機能1・2、排尿の仕組み、腎機能検査	講義	
11 (3)	泌尿器系	講義	
12 (3)	消化器系	講義	
13 (3)	消化器系	講義	
14 (3)	身体の調節機構	講義	
15 (2)	まとめ	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法		筆記試験	
テキスト・参考書		医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学	
その他			

<b>生化学</b> 担当：左 一八（大学教授）		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：3～4時間	
分野 専門基礎分野 人体の構造と機能			
学習目標 1 人体を物質レベルでとらえ、その構造、性状を解釈する。 2 人体の基本単位に細胞の構造と機能を理解する。 3 三大熱量素の代謝を理解する。 4 ビタミン、ホルモンの役割を理解する。 5 生体における代謝機能と防御機能について理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (4)	イントロダクション、生体物質1	講義	
2 (4)	生体物質2、水（電解質）、無機質	講義	
3 (4)	ホルモン、酵素・ビタミン	講義	
4 (4)	エネルギー代謝1	講義	
5 (4)	エネルギー代謝2、代謝各論	講義	
6 (3)	遺伝情報、転写・翻訳	講義	
7 (3)	代謝異常、情報伝達	講義	
8 (3)	止血と線溶、まとめ	講義	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 生化学 その他			

<b>病理学総論</b> 担当：加藤 淳（臨床検査技師） 渡部 裕美子（専任教員）		開講学年：第1学年 開講時期：後期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 解剖生理学で得た知識をもとにその疾患の成り立ちとその原因や経過、特に形態的・機能的な変化について理解する。			
1 (2)	病理学で学ぶこと	講義	備考
2 (2)	細胞・組織の障害と修復	講義	
3 (2)	炎症 循環障害	講義	
4 (2)	腫瘍	講義	
5 (2)	循環器系の疾患	講義	
6 (2)	血液、造血器系の疾患	講義	
7 (2)	呼吸器系の疾患	講義	
8 (2)	消化器系の疾患	講義	
9 (2)	腎泌尿器・生殖器・乳腺の疾患	講義	
10 (2)	内分泌の疾患	講義	
11 (2)	感染症	講義	
12 (3)	免疫、移植と再生医療	講義	
13 (2)	老化と死	講義	
14 (2)	先天異常と遺伝子異常	講義	
15 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 その他			



病態生理学 I 呼吸器		開講学年：第1学年	
担当：山岸 茂樹（医師）		開講時期：後期	
		単位数：1単位 30時間（15時間）	
		*運動器15時間と合わせて30時間	
		開講形態：講義	
		週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標			
1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	呼吸器の解剖・生理、呼吸機能検査	講義	
2 (2)	呼吸器感染症（肺炎・インフルエンザ）	講義	
3 (2)	呼吸器感染症（結核、非結核性抗酸菌症）	講義	
4 (2)	気道疾患（気管支喘息、COPD）	講義	
5 (2)	間質性肺疾患（肺線維症、その他）	講義	
6 (2)	肺血栓塞栓症、呼吸不全	講義	
7 (2)	肺腫瘍	講義	
8 (1)	胸膜・縦隔疾患	講義	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門分野 呼吸器			
その他			

病態生理学 I 運動器		開講学年：第1学年	
担当：高須 誠（医師）		開講時期：後期	
		単位数：1単位 30時間（15時間）	
		*呼吸器15時間と合わせて30時間	
		開講形態：講義	
		週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標			
1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	解剖・生理 病態生理、形態と機能	講義	
2 (2)	症候・診断について	講義	
3 (2)	診断・骨折各論について	講義	
4 (2)	骨折各論	講義	
5 (2)	外傷性疾患について	講義	
6 (2)	外傷性疾患・先天性疾患について	講義	
7 (2)	先天性疾患について	講義	
8 (1)	内因性疾患について	講義	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門分野 運動器			
その他			

病態生理学Ⅱ 循環器		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（15時間） *脳神経疾患15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：寺田 功一（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1. 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	下大静脈、上大静脈→右心房→三尖弁→右心室→肺動脈→肺静脈弁 →左心房→僧帽弁→左心室→上行大動脈 肺動脈圧、一日の脈、心拍出量、心筋の厚さ	講義	
2 (1)	冠動脈の房室接合部面、正常 EKG、何で VF になるか	講義	
3 (1)	刺激伝導系、内腔→外腔 QRS の幅、脚ブロック、ペースメーカー、 心電図	講義	
4 (1)	大循環、小循環、カリウムと心停止、低カリウム血症と不整脈 リン パ管胸管、乳び胸、気胸	講義	
5 (1)	虚血（可逆・非可逆）側腹血行、冠動脈、解離、酵素の需要とバラン ス、AED、不整脈	講義	
6 (1)	GOT、GPT、CPK、LDH、WBC 出現と消退、IABD 解離	講義	
7 (1)	冠動脈バイパス	講義	
8 (1)	体外循環、不安定狭心症、関連痛	講義	
9 (1)	心不全、ポンプを使って説明、動脈硬化と収縮期拡張期血圧、血管 抵抗	講義	
10 (1)	体外循環、肺水腫、心臓喘息、気管支喘息	講義	
11 (1)	出血性ショック、βブロックと慢性心不全、胎児循環	講義	
12 (1)	胎児循環、	講義	
13 (1)	心室中隔欠損根治、肺動脈絞扼術、完全房室ブロック	講義	
14 (1)	脳梗塞、高血圧	講義	
15 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 上塚芳郎他：専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器，医学書院. その他			

病態生理学Ⅱ 脳神経		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（循環器15時間） *循環器疾患15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：越智 崇（医師） 田沢 嵩也（医師） 佐藤 大介（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	脳・神経の解剖生理・構造と機能	講義	
2 (2)	神経症状と病態生理	講義	
3 (2)	診察・検査・診断と治療	講義	
4 (2)	脳梗塞・脳腫瘍	講義	
5 (2)	くも膜下出血、脳出血	講義	
6 (2)	脳の感染症・外傷	講義	
7 (2)	変性疾患・神経筋疾患・認知症	講義	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門分野 脳・神経 その他			

病態生理学Ⅲ 消化器		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（15時間） *内分泌・代謝15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：天野 穂高（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（2）	消化管機能と構造 疾患の理解 食道	講義	
2（2）	疾患の理解 胃	講義	
3（2）	〃 大腸	講義	
4（2）	〃 大腸・イレウス	講義	
5（2）	〃 肝臓	講義	
6（2）	〃 肝臓・胆のう	講義	
7（2）	〃 膵臓	講義	
8（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 金田 智他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅲ 内分泌・代謝		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（15時間） *消化器15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：曾根 恵児（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（1）	内分泌総論（内分泌器官・健康教育）	講義	
2（1）	視床下部一下垂体系ホルモン	講義	
3（1）	下垂体前葉	講義	
4（1）	下垂体後葉 甲状腺総論	講義	
5（1）	橋本病 バセドウ病	講義	
6（1）	亜急性甲状腺、甲状腺癌、副甲状腺機能亢進症	講義	
7（1）	副甲状腺機能低下症 副腎疾患総論	講義	
8（1）	原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫	講義	
9（1）	性ホルモン異常	講義	
10（1）	糖尿病総論 分類	講義	
11（1）	糖尿病の合併症（慢性）	講義	
12（1）	糖尿病の合併症（急性）	講義	
13（1）	メタボリックシンドローム 脂質異常症	講義	
14（1）	尿酸代謝障害	講義	
15（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 黒江ゆり子他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅳ 腎・泌尿器		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（15時間） *血液10時間、アレルギー膠原病5時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：長澤 正人（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	腎臓・泌尿器の構造と機能	講義	
2 (1)	腎臓・泌尿器の構造と機能	講義	
3 (1)	症状とその病態生理 尿の異常、浮腫、脱水、	講義	
4 (1)	〃 環器系の異常、血液の異常、尿毒症、	講義	
5 (1)	〃 疼痛、腫脹・腫瘤、その他の症状	講義	
6 (1)	検査と治療・処置 診察、検査、治療と処置	講義	
7 (1)	排尿管理、透析療法、腎移植	講義	
8 (1)	疾患の理解 腎不全とAKI・CKD	講義	
9 (1)	疾患の理解 腎不全とAKI・CKD	講義	
10 (1)	疾患の理解 ネフローゼ症候群 糸球体腎炎	講義	
11 (1)	疾患の理解 全身性疾患による腎障害	講義	
12 (1)	疾患の理解 尿路の通障害と機能障害	講義	
13 (1)	疾患の理解 尿路結石	講義	
14 (1)	疾患の理解 尿路の腫瘍	講義	
15 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 飯野京子他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅳ 血液		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（10時間） *腎・泌尿器15時間、アレルギー膠原病5時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：青木 英子（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	血液の成分と機能	講義	
2 (1)	造血のしくみ 検査	講義	
3 (1)	赤血球の異常	講義	
4 (1)	再生不良性貧血 溶血性貧血	講義	
5 (1)	造血幹細胞移植	講義	
6 (1)	血液型	講義	
7 (1)	白血病	講義	
8 (1)	悪性リンパ腫	講義	
9 (1)	多発性骨髄腫 血友病 DIC 等	講義	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 飯野京子他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅳ アレルギー・膠原病		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間（5時間） *腎・泌尿器15時間、血液10時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：渡部 裕美子（専任教員）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（1）	アレルギー・免疫のしくみ、検査と診断	講義	
2（1）	アレルギー・症状と疾患の理解	講義	
3（1）	アレルギー・症状と疾患の理解 膠原病 自己免疫と病態生理 検査と治療 疾患の理解	講義	
4（1）	膠原病 自己免疫と疾患の理解	講義	
5（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 岩田健太郎他：成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅴ 女性生殖器		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位 20時間（10時間） *歯科・口腔10時間と合わせて20時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：山田 純也（医師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（1）	女性生殖器の構造と機能	講義	
2（1）	症状とその病態生理	講義	
3（1）	診察・検査	講義	
4（1）	治療・処置・疾患の理解	講義	
5（2）	臓器別疾患（子宮・卵巣）	講義	
6（1）	臓器別疾患（骨盤内炎症・不育症）	講義	
7（2）	機能的疾患（月経異常・更年期・不妊症）	講義	
8（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 末岡 浩他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器，医学書院.			
その他			

病態生理学Ⅴ 歯科・口腔		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位 20時間（10時間） *女性生殖器10時間と合わせて20時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：宮島 久（歯科医師）			
分 野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 系統別疾患の病態と治療、検査について理解することで、健康・疾病に関する観察力・判断力を養い、看護に活用できる。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1（1）	歯科概論	講義	
2（1）	歯・口腔の構造と機能	講義	
3（2）	歯・口腔疾患で生じる主な症状	講義	
4（2）	歯・口腔疾患の主な検査と治療法	講義	
6（2）	歯・口腔疾患の診療	講義	
8（1）	口腔ケア演習	演習	
9（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 道 徳一他：専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ [第27巻] 歯・口腔，メヂカルフレンド社。			
その他			

微生物学		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：3～4時間	
担当：錫谷 達夫（大学教授）			
分 野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解する。 2 感染とその予防と治療について理解する。			
回数及び 時間	授業内容	方法	備考
1（4）	総論（歴史、細菌とは？、感染経路、他）	講義	
2（4）	免疫	講義	
3（4）	総論（感染症成立の3要因、滅菌・消毒、ワクチン）	講義	
4（4）	細菌学各論（球菌、腸内細菌）	講義	
5（4）	細菌学各論（桿菌）	講義	
6（3）	細菌学各論（抗酸菌、らせん状菌、クラミジア）、 ウイルス総論	講義	
7（3）	ウイルス各論（DNAウイルス、RNAウイルス）	講義	
8（3）	〃（ 〃 ）	講義	
9（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 ナースのための微生物学 南山堂			
その他			

<b>薬理学Ⅰ 総論</b>		開講学年：第1学年 開講時期：後期 単位数：1単位 15時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：鈴木 涼子（薬剤師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 薬物の作用、効果、性質を学び、薬物が人体に及ぼす影響と薬剤の管理、看護に必要な基礎的知識を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	薬理学とはなにか	講義	
2 (2)	薬作用するしくみ	講義	
3 (2)	薬物動態 薬物相互作用	講義	
4 (2)	薬物使用の有益と危険性	講義	
5 (2)	薬と法律	講義	
6 (2)	薬理学総論（漢方薬・添付文書の見方）	講義	
7 (2)	消毒薬 まとめ	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価法 筆記試験 テキスト・参考書 看護テキスト 薬理学 南江堂 今日の治療薬 南江堂 その他			

<b>薬理学Ⅱ 各論</b>		開講学年：第2学年 開講時期：前期 単位数：1単位 15時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：鈴木 涼子（薬剤師）			
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 主な疾患に対する薬物の臨床効果、副作用、禁忌、また、薬物相互作用について理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	輸液製剤、血液に作用する薬物（抗血栓薬を含む）	講義	
2 (2)	心臓・血管系に作用する薬物、交感神経作用薬	講義	
3 (2)	末梢での神経活動・中枢神経系に作用する薬物	講義	
4 (2)	中枢神経系に作用する薬物	講義	
5 (2)	抗感染症薬	講義	
6 (2)	抗がん薬	講義	
7 (2)	抗がん剤	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価法 筆記試験 テキスト・参考書 看護テキスト 薬理学 南江堂 今日の治療薬 南江堂 その他			

<b>栄養学</b> 担当：小檜山 富士子（管理栄養士）		開講学年：第1学年 開講時期：後期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 実習 週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 栄養の意義と疾病の回復に必要な治療食について理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	食生活の見直し、人間栄養学、食品成分表の使用	講義	
2 (2)	栄養素の種類とはたらき	講義	
3 (1)	エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準	講義	
4 (2)	食品分類と栄養機能食品、特別用途食品、栄養科マネジメント、栄養評価（身体計測含む）	講義	
5 (2)	栄養アセスメント（症例を含む）、臨床栄養の基礎	講義	
6 (2)	栄養機能食品と特定保健用食品の発表 チームでの栄養管理、栄養補給法、病院食	講義	
7 (1)	消化器疾患患者の栄養食事療法（ロールプレイ）	演習	
8 (1)	中間試験	試験	
9 (2)	術後食（上部消化管）、分割食の実習	実習	
0 (2)	テストの復習、食事療法（高血圧症、脂質異常症）	講義	
1 1 (2)	高血圧・脂質異常症の食事療法 調理実習	実習	
1 2 (2)	肥満、痛風、慢性腎不全病、透析の各食事	講義	
1 3 (2)	CKD ステージⅢの食事療法 調理実習	実習	
1 4 (2)	糖尿病の栄養食事療法	講義	
1 5 (2)	糖尿病の食事療法の献立作成、高齢者・がんの栄養療法	講義	
1 6 (2)	糖尿病の食事療法 調理実習（各自のメニュー）	実習	
1 7 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 栄養学 医学書院 別巻 栄養食事療法 医学書院 カラーグラフ 食品成分表 実教出版 糖尿病治療のための食品交換表 文光堂			
その他			

<b>基礎医学演習</b> 担当：根本 佳奈（専任教員）		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位 15時間 開講形態：演習 週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進			
学習目標 1 解剖学演習を通して、人体の構造と機能の理解を深めることができる。 2 ご遺体に対し敬虔な態度を身につけることができる。 3 病原微生物の生体について演習を通して理解を深めることができる。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (7)	解剖学演習	演習	
2 (8)	微生物学演習	演習	
成績評価方法 出席状況、態度、レポート			
テキスト・参考書 解剖生理学 医学書院 入門人体解剖学 南江堂 ナースのための微生物学 南山堂			
その他			



<b>関係法規</b>		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位 20時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：山田 忠一（病院総務課長、大学法学部卒）			
分野 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度			
学習目標 1 看護業務に携わる者の身分や業務に必要な法令について理解する。 2 看護職と保健、医療、福祉の連携活動について理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	法の概念（概念、厚生行政のしくみ）	講義	
2 (2)	医事法（保健師助産師看護師法）	講義	
3 (2)	医事法（看護師等の人材確保の促進に関する法律、医師法）	講義	
4 (2)	医療法	講義	
5 (2)	医療法、医師法、死産の届出に関する規定	講義	
6 (2)	健康増進法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	講義	
7 (2)	母子保健法、母体保護法 学校保健安全法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、がん対策基本法、地域保健法、環境基本法	講義	
8 (2)	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、 新型インフルエンザ対策特別措置法、予防接種法、検疫法、 医薬品・医療機器等の品質有効性及び安全性の確保等に関する法律 麻薬及び向精神薬取締法	講義	
9 (2)	大麻取締法～覚醒剤取締法、健康保険法、国民健康保険法、 高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法	講義	
10 (2)	介護保険法、社会福祉法、生活保護法、民生委員法、児童福祉法、 身体障害者福祉法、労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険 法、介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律)	講義	
11 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 看護関係法令 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 その他			

<b>社会福祉</b>		開講学年：第2学年 開講時期：前期 単位数：2単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：小池 直子（社会福祉士）			
分野 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度			
学習目標 1 人々に提供される保健・医療・福祉サービスについて理解する。 2 看護職と保健・医療・福祉の連携活動について理解する。 3 看護の対象に必要な社会資源の活用方法を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	社会保障制度について	講義	
2 (2)	社会福祉の分野とサービス	講義	
3 (2)	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義	
4 (2)	介護保険制度について 在宅・施設サービスについて	講義	
5 (2)	介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史医療保障制度の 沿革 保険給付	講義	
6 (2)	成年後見制度、利用者の権利擁護について	講義	
7 (2)	障害者福祉 障害者の定義と実態 障害者福祉制度の変遷	講義	
8 (2)	障害者総合支援法のサービス体系 法制度について	講義	
9 (2)	児童福祉について 児童・高齢・障害に対する施策のGW	講義・GW	
10 (2)	生活保護制度の仕組み 生活保護の種類と方法、対策	講義	
11 (2)	保険証の種類、高額療養制度、健康保険と国民健康保険	講義	
12 (2)	被用者保険、国民保険の被用負担、高齢者医療制度、 医療費の動向について	講義	
13 (2)	社会福祉援助の検討課題 社会福祉実践と医療、看護との 連携、職種間連携とは	講義	
14 (2)	所得保障制度のしくみ、年金保険制度について、雇用保険	講義	
15 (1)	労働者災害補償保険制度について 復習	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 福田素生他：専門基礎分野 健康支援と社会保障性制度 社会福祉，医学書院。			
その他			

<b>公衆衛生</b> 担当：佐藤 隆子（看護師、保健師、助産師） 県立病院、保健福祉事務所等で33年の 実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：2単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度			
学習目標 1. 健康の現状や健康を保持するための法令制度や、健康の維持増進を計るための保健活動・サービス提供機関について理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	公衆衛生の理念（公衆衛生の目的とその方法～健康の概念と主体的健康観）	講義	
2 (1)	〃 （権利とPHC）	講義	
3 (2)	公衆衛生の技術（疫学と健康指標）	講義	
4 (2)	医療の動向と医療保障（医療の動向～医療保障制度と医療経済）	講義	
5 (2)	公衆衛生と国際化（公衆衛生と国際化～情報公開と生命倫理）	講義	
6 (2)	地域保健（地域と健康～地域保健）	講義	
7 (2)	母子保健（健やか親子～子育てと家族）	講義	
8 (2)	母子保健（リプロダクティブヘルスノライツ～ジェンダー）	講義	
9 (1)	まとめ	試験	
10 (2)	学校保健（学校保健の理念と目的～養護教諭と保健室の機能）	講義	
11 (2)	成人、老人保健（成人、老人保健～生活機能と保健活動）	講義	
12 (2)	精神保健（精神保健福祉法と障害者プラン～精神保健福祉の概念と施策の現状）難病保健	講義	
13 (2)	環境とは 生活環境の保全（2）	講義	
14 (2)	生活環境・産業保健（労働者を取り巻く状況）	講義	
15 (2)	産業保健（労働者の健康状態～産業保健に期待される活動） 感染症・危機管理（感染法）	講義	
16 (2)	感染法・危機管理（危機管理～災害保健）	講義	
17 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 芦野由利子他：専門基礎分野 健康と社会保障制度 公衆衛生，医学書院. 国民衛生の動向，厚生統計協会.  その他			

<b>現代医療論</b> 担当：高地 英夫（元大学教授）		開講学年：第3学年 開講学期：後期 単位数：1単位 15時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度			
学習目標 1. 医学・医療の歩みから、医療供給体制の現状、現代医療の抱える課題について理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (3)	医学・医療のあゆみ	講義	
2 (3)	健康と疾病	講義	
3 (3)	医学と医療（医療の本質）	講義	
4 (3)	わが国の医療供給体制 医療の現状	講義	
5 (2)	現代医療における諸問題（告知、安楽死、高齢社会の問題点 性同一性障害、発達障害）	講義	
6 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法  筆記試験  テキスト・参考書 新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メジカルフレンド社			

<b>基礎看護学概論</b>		開講学年：第1学年	
担当：二瓶 キヨ子（専任教員） 会津中央病院で12年の実務経験		開講学期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 看護全体の主要概念をとらえ、看護の位置づけ、専門性について理解する。 2 看護の対象である人間の特徴と生活者としての人間を理解する。 3 看護の提供者を理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (1)	ガイダンス、看護とはなにか	講義	
2 (2)	看護の3要素、看護の歴史	講義	
3 (2)	日本の看護の歴史	講義	
4 (2)	看護の定義（理論家・看護職能団体による定義）	講義	
5 (2)	看護の対象の理解（人間・ストレス学説・マズローの欲求段階説）	講義	
6 (1)	看護の対象の理解 発達課題 家族	講義	
7 (2)	国民の健康状態を理解する GW 解答合わせ	講義・GW	
8 (2)	健康とは 社会的健康とは	講義	
9 (1)	看護の提供者 看護教育制度	講義	
10 (2)	看護職者の就業状況 専門・認定・特定看護師	講義	
11 (1)	看護職者の養成制度の課題	講義	
12 (1)	看護者の倫理綱領 第13条を考える	講義	
13 (1)	看護者に必要な品行について	GW	
14 (1)	看護師の法的責任について	講義	
15 (1)	今までの講義の知識確認 過去問プリント・GW	講義・GW	
16 (1)	過去問解答・解説	講義	
17 (1)	サービスとしての看護 チーム医療	講義	
18 (1)	チーム医療 事例から他職種との連携・協働を理解する	講義	
19 (2)	看護方式	講義	
20 (2)	医療安全	講義	
21 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 終講試験 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座①看護学概論 医学書院：看護覚え書き決定版 サイオ出版：実践に生かす看護理論19 日本看護協会出版社：看護の基本となるもの その他			

<b>基礎看護学方法論 I 看護過程</b>		開講学年：第1学年	
担当：二瓶 キヨ子（専任教員） 会津中央病院で12年の実務経験		開講学期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 看護過程を構成する要素とそのプロセス、または看護過程を用いることの意義を理解する。 2 問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶ。 3 看護過程の各段階について、その基本的な考え方を理解する。 4 看護記録の目的と留意点、その構成について理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (1)	看護過程とは	講義	
2 (2)	看護過程の5つの構成要素 看護過程の基盤となる力（問題解決過程、倫理的配慮と価値判断）	講義	
3 (2)	アセスメントとは	講義	
4 (2)	看護上の問題点とは（共同問題）	講義	
5 (1)	確認テスト アセスメントとは	講義	
6 (1)	事例：アセスメントとは GW まとめ	グループワーク	
7 (2)	アセスメント・看護上の問題とは	講義	
8 (2)	データベースアセスメント 事例を使って	講義	
9 (2)	事例：枠組みを使用してのアセスメント	グループワーク	
10 (2)	事例：枠組みを使用してのアセスメント	グループワーク	
11 (2)	事例：枠組みを使用してのアセスメント	グループワーク	
12 (1)	まとめ	講義	
13 (1)	アセスメントまとめ	講義	
14 (1)	統合・関連図について	講義	
15 (2)	事例を使って関連図を書く	講義	
16 (1)	事例を使って関連図を書く 関連図のまとめ	講義	
17 (2)	看護目標・看護計画・実施・評価とは	講義	
18 (2)	学習支援・看護記録の種類と位置づけ	講義	
19 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 出席状況 演習参加状況 テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 阿部俊子 監修：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図. 中央法規 その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅱ ヘルスアセスメント 活動・休息</b>		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：小池 真由美（専任教員） 会津中央病院、坂下厚生総合病院等で30年の 実務経験			
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 ヘルスアセスメント技術を理解し、実施できる。 2 活動と休息を整える方法を知り、実施できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	活動援助の必要性 姿勢の基礎知識	講義	
2 (2)	ボディメカニクス 基本体位	講義	
3 (2)	体位がもたらす影響 体位変換の目的	講義	
4 (2)	体位変換の援助 仰臥位から長座位への移動 長座位から端座位への移動 端座位から立位への移動	演習	
5 (2)	車椅子・ストレッチャー 移乗の援助と移送の方法 歩行介助	演習	
6 (2)	睡眠と睡眠障害 援助について	講義	
7 (2)	ヘルスアセスメント 意義と目的 意識とは（意識レベルの評価）	講義	
8 (2)	バイタルサインの観察とアセスメント 体温	講義	
9 (2)	バイタルサインの観察とアセスメント 脈拍	講義	
10 (2)	バイタルサインの観察とアセスメント 呼吸（経皮的酸素飽和度を含む）	講義	
11 (2)	バイタルサインの観察とアセスメント 血圧	講義	
12 (2)	バイタルサインの実施 グループ練習	演習	
13 (2)	バイタルサイン校内演習の練習	演習	
14 (2)	バイタルサイン校内演習	演習	
15 (2)	身体測定の方法 留意点 実施	講義・演習	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス Gakken			
その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅲ 環境・食事・排泄</b>		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験			
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整、整備 できる。 2 食事援助の基礎知識を理解し援助できる。 3 排泄についての基礎的知識を理解し援助できる。			
回数 及び時間	講義内容	方法	備考
1 (2)	環境とは：人間と環境、病床環境	講義	
2 (2)	ベッドメイキングの意義・目的・注意	講義	
3 (2)	食事とは：意義、食形態など食事に関する基礎知識 嚥下・摂食能力のアセスメント 食事介助の援助の基礎知識	講義	
4 (2)	摂食・嚥下訓練、胃管挿入方法 非経口的栄養摂取・中心静脈栄養法など	講義	
5 (2)	食事介助の実際		
6 (2)	ベッドメイキングの練習	演習	
7 (2)	〃	演習	
8 (2)	ベッドメイキングの演習	演習	
9 (2)	排泄とは：意義 自然排尿および自然排便の基礎知識	講義	
10 (2)	排尿障害のある患者への援助 一時的導尿・持続的導尿、浣腸、摘便	講義	
11 (2)	ストーマケア、排泄援助の実際	講義	
12 (2)	オムツ交換、床上排泄の練習	演習	
13 (2)	〃	演習	
14 (3)	オムツ交換、床上排泄の演習	演習	
15 (1)	まとめ	講義	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス Gakken			
その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅳ 清潔・衣生活</b> 担当：根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：前期 単位数：1単位30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 清潔援助の基礎知識を理解し援助できる。			
回数および時間	講義内容	方法	備考
1 (1)	清潔の援助・衣生活 ガイダンス 身体清潔の意義・目的 皮膚の機能を保つためのケア	講義	
2 (2)	口腔ケアの実技	講義 演習	
3 (2)	手浴・足浴・爪切り 実技	講義 演習	
4 (2)	寝衣交換 実技	講義 演習	
5 (2)	身体の清潔 全身清拭デモンストレーション 脱衣、顔の清拭 実技	講義 演習	
6 (2)	全身清拭（顔～腹部）実技	講義 演習	
7 (2)	全身清拭（下肢～背部）、着衣 実技	講義 演習	
8 (2)	全身清拭 練習	講義 演習	
9 (2)	全身清拭 練習	講義 演習	
10 (3)	全身清拭 演習	演習	
11 (1)	ベッド上での洗髪効果とリスク、洗髪器具について	講義 演習	
12 (1)	体位の工夫と洗髪方法、ベッド上での洗髪 デモ	講義 演習	
13 (2)	洗髪 練習	講義 演習	
14 (2)	洗髪 練習	講義 演習	
15 (3)	洗髪 演習	演習	
16 (1)	まとめ 終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス Gakken  その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅴ 感染防止の技術 安全確保の技術</b> 担当：堤 千恵（専任教員） 福島県立会津総合病院他で32年の 実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位 15時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を理解する。 2 標準予防策・感染経路別予防策を学び、適切に実践できる。 3 医療器具の管理および環境整備の意義や重要性を理解する。 4 無菌操作について理解し、正しく実践できる。 5 安全確保の技術として、リスクアセスメントとその防止のための具体的方法を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	感染防止の基礎知識、標準予防策	講義	
2 (1)	標準予防策	演習	
3 (1)	洗浄・消毒・滅菌	講義	
4 (2)	無菌操作	講義	
5 (1)	感染性廃棄物	講義	
6 (2)	無菌操作演習	演習	
7 (2)	安全確保の基礎知識・誤薬防止	講義	
8 (1)	チューブ類の予定外抜去防止、患者誤認防止	講義	
9 (2)	転倒転落防止・薬剤放射線暴露の防止	講義	
10 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス Gakken  その他			

基礎看護学方法論VI 経過別看護		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：2単位 45時間（15時間） *症状別看護15時間、治療・処置別看護15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員） 会津中央病院他施設等で14年の実務経験			
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学ぶ。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	看護における経過とは 生活習慣病とは 予防について	講義	
2 (2)	ヘルスプロモーション 急性期の経過の特徴	講義	
3 (2)	急性期にある患者の看護 看護の特性	講義	
4 (2)	慢性期にある患者の看護 看護の特性	講義	
5 (2)	リハビリ期にある患者の看護 看護の特徴	講義	
6 (2)	終末期にある患者の看護 看護の特性・ニーズ	講義	
7 (2)	DVD「ALSを生きる」	講義	
8 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 レポート テキスト・参考書 岩井郁子他：専門分野I 基礎看護学〔4〕臨床看護総論，医学書院。 その他			

基礎看護学方法論VI 症状別看護		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：2単位 45時間（15時間） *経過別看護15時間、治療・処置別看護15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験			
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学ぶ。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	生命維持・日常生活が障害されるは	講義	
2 (2)	呼吸障害のある患者の看護	講義	
3 (2)	呼吸障害・循環器障害のある患者の看護	講義	
4 (2)	循環器・化・排泄障害のある患者の看護	講義	
5 (1)	排泄障害のある患者の看護	講義	
6 (2)	認知・感覚障害のある患者の看護	講義	
7 (2)	感覚障害のある患者の看護	講義	
8 (2)	排泄障害のある患者の看護（導尿）	演習	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 試験			
テキスト 専門3 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 学研			
その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅵ 治療・処置別看護</b> 担当：本田 めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：2単位 45時間（15時間） ＊経過別看護15時間、症状別看護15時間、と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学ぶ。			
回数 及び時間	講義内容	方法	備考
1（2）	輸液療法を受ける対象者への看護	講義	
2（2）	輸液療法を受ける対象者への看護	講義	
3（2）	化学療法を受ける対象者への看護	講義	
4（2）	化学療法を受ける対象者への看護	講義	
5（2）	手術療法を受ける対象者への看護（合併症の予防と指導 不安への援助 ボディイメージの変容への援助）	講義	
6（1）	手術療法を受ける対象者への看護（手術・麻酔による影響と 援助 術中の安全管理）	講義	
7（1）	手術療法を受ける対象者への看護（術後の疼痛管理 術後合 併症予防 早期回復促進への援助 機能障害と生活制限への援 助）	講義	
8（2）	集中治療を必要とする患者の看護	講義	
9（1）	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 基礎看護学〔4〕臨床看護学総論 その他			

<b>基礎看護学方法論Ⅶ 与薬 治療・検査への援助</b> 担当：小池真由美（専任教員） 会津中央病院、坂下厚生総合病院等で 30年の実務経験		開講学年：第2学年 開講時期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 呼吸・循環を整える技術について目的と方法を理解し、援助の実際を学ぶ。 2 創傷とその治癒のメカニズムを知り、創傷管理技術について学ぶ。 3 正しい与薬、薬剤の管理方法と援助の実際を学ぶ。 4 検体検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（2）	呼吸を整える技術 酸素吸入療法の目的 各種酸素療法の器具と特徴	講義	
2（2）	酸素療法の実際 酸素ボンベの残量の計算	講義	
3（1）	吸引の目的 一時的吸引法の留意事項	講義	
4（2）	一時的吸引援助の実際方法	講義	
5（2）	創傷管理技術 創傷と治癒のメカニズム 治癒のための環境	講義	
6（2）	創傷処置 創洗浄、創保護、包帯法	講義 演習	
7（2）	褥瘡とは 褥瘡の発生要因 好発部位	講義	
8（2）	褥瘡の予防 NPUAP分類 栄養アセスメントの実際	講義	
9（2）	罨法の目的 種類 実施方法	講義	
10（2）	与薬とは 与薬における看護師の役割 薬物の管理	講義	
11（2）	経口与薬・口腔内与薬・吸入	講義	
12（2）	点眼・直腸内・経皮的与薬	講義	
13（2）	注射法の基礎知識 実施方法	講義	
14（2）	注射法の実施	演習	
15（2）	検体検査の取り扱い（尿検査・便検査・喀痰検査）	講義	
16（1）	試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 その他			

<b>基礎看護学演習</b>		開講学年：第2学年	
担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験		開講学期：後期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 対象に合わせた援助技術を実践できる。 2 指導により採血が実施できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション	講義	
2 (2)	事例・援助技術学習（個人）	GW	
3 (2)	事例・援助技術学習（グループ）	GW	
4 (2)	事例・援助技術学習	GW	
5 (2)	技術練習	GW	
6 (2)	演習	GW	
7 (2)	事例・援助技術学習（個人）	演習	
8 (3)	事例・援助技術学習（グループ）	GW	
9 (2)	事例・援助技術学習	GW	
10 (2)	技術練習	GW	
11 (2)	演習	演習	
12 (2)	採血演習オリエンテーション 個人学習	GW	
13 (2)	技術練習	GW	
14 (3)	採血の演習	演習	
成績評価方法 態度、レポートで評価する			
テキスト・参考書 専門Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院			
その他			

<b>看護研究</b>		開講学年：第2学年	
担当：本田 めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学期：前期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 看護研究の基礎を理解し、研究論文を完成できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	文章作成	講義	
2 (2)	看護研究をする意義 看護研究の捉え方	講義	
3 (2)	倫理的配慮について ケーススタディの進め方	講義	
4 (2)	振り返りと看護研究の構成要素とケーススタディの進め方	講義	
5 (2)	ケーススタディの構成要素と具体的な進め方	講義	
6 (2)	ケーススタディの構成要素と具体的な進め方 論文の書き方	講義	
7 (2)	看護研究計画書の作成	講義・指導	
8 (2)	看護研究計画書の作成	講義・指導	
9 (2)	看護研究計画書の作成	講義・指導	
10 (8)	発表	発表	
11 (4)	学会参加	学会参加	
成績評価方法 ケーススタディ（プロセスから発表）で評価する			
テキスト・参考書 照林社：楽しくできるわかりやすい 看護研究論文の書き方			
その他			



<b>フィジカルアセスメント技法</b> 担当：本田 めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第2学年 開講時期：前期 単位数：1単位 15時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 基礎看護学			
学習目標 1 フィジカルアセスメントとは何か、その内容、看護における意義を理解する。 2 胸部・肺、心臓・循環系、腹部・消化器系、筋・骨格系のアセスメントについて、観察ポイントと正常所見、異常所見を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	フィジカルアセスメントとは 胸部・肺のアセスメント 基本的構造と機能	講義	
2 (2)	胸部・肺のアセスメント 呼吸音の聴診	講義、演習	
3 (2)	胸部・肺のアセスメント 呼吸系フィジカルアセスメントの内容と進め方 事例	講義、演習	
4 (2)	胸部・肺のフィジカルアセスメントまとめ 腹部・消化器系のアセスメント	講義、演習	
5 (2)	腹部・消化器系のアセスメント 聴診～腸蠕動音の聴診とそのポイント	講義、演習	
6 (1)	腹部・消化器系のアセスメント 事例 問診、視診	講義、演習	
7 (1)	腹部・消化器系のアセスメント 事例 視診、触診	講義、演習	
8 (1)	末梢循環系のフィジカルアセスメント	講義、演習	
9 (1)	末梢循環系のフィジカルアセスメント	講義、演習	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 演習状況 筆記試験 テキスト・参考書 はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社 その他			

<b>地域・在宅看護論概論</b> 担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：2単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 地域・在宅看護論			
学習目標 1 地域・在宅看護の概念と変遷について理解する。 2 地域・在宅看護を必要とする対象と看護師の機能・役割を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	地域・在宅看護 概念	講義	
2 (2)	情勢の変化と地域・在宅看護	講義	
3 (2)	情勢の変化と地域・在宅看護 多様な看護の場	講義	
4 (2)	地域・在宅看護の目的	講義	
5 (2)	地域・在宅看護の特徴	講義	
6 (2)	地域・在宅看護における看護師の機能・役割	講義	
7 (2)	看護師の機能・役割 地域包括ケア	講義	
8 (2)	看護師の機能・役割 地域包括ケアシステム	講義	
9 (2)	看護師の機能・役割 地域包括ケアシステム	講義	
10 (2)	看護師の機能・役割 ケアニーズに応じた看護提供	講義	
11 (2)	地域・在宅看護における倫理	講義	
12 (2)	地域・在宅看護の対象の特徴	講義	
13 (2)	地域・在宅看護の対象 療養状態別対象の特徴	講義	
14 (2)	地域・在宅看護の対象 家族のとらえ方	講義	
15 (1)	地域・在宅看護の対象 家族への支援	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト 統合分野 在宅看護論 医学書院 その他			

地域・在宅看護論方法論Ⅰ 看護活動		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位 45時間（30時間） *看護活動15時間（大友）と合わせ45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 地域・在宅看護論			
学習目標 1 地域・在宅看護の実践について理解する。 2 地域・在宅看護の対象者と家族に対する支援方法を理解する。 3 地域・在宅看護にかかわる法令・制度とその活用について理解する。			
回数及び (時間)	授業内容	方法	備考
1 (2)	地域・在宅看護の制度：創設・発展経緯等の理解	講義	
2 (2)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度	講義	
3 (2)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度 介護保険制度	講義	
4 (2)	地域・在宅看護にかかわる法令・制度 訪問看護制度	講義	
5 (2)	訪問看護ステーションに関する規定	講義	
6 (2)	訪問看護利用までの手順 サービスの提供	講義	
7 (2)	地域・在宅看護の展開 看護過程展開のポイント	講義	
8 (2)	地域・在宅看護の展開 看護過程展開のポイント	講義・GW	
9 (2)	地域・在宅看護の展開 看護過程展開のポイント	講義・GW	
10 (2)	地域・在宅看護の展開 看護過程展開のポイント	講義・GW	
11 (2)	権利擁護 成年後見制度 対象の尊厳・虐待等	講義	
12 (2)	地域・在宅における権利保障 尊厳 自己決定権等	講義・GW	
13 (2)	地域・在宅における権利保障 成年後見 虐待等	講義	
14 (2)	介護保険制度・訪問看護制度（事例）	講義・GW	
15 (1)	介護保険制度・訪問看護制度（事例）	講義・GW	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト 統合分野 在宅看護論 医学書院 その他			

地域・在宅看護論方法論Ⅰ 看護活動		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位 45時間（15時間） *看護活動30時間（水下）と合わせ45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：菅谷 幹子（看護師） 会津中央病院で39年の実務経験			
分野 専門分野 地域・在宅看護論			
学習目標 1 地域・在宅看護の対象者と家族に対する支援方法を理解する。 2 地域における多職種連携について理解する			
回数及び (時間)	授業内容	方法	備考
1 (1)	地域・在宅療養の支援 多様な看護の場	講義	
2 (1)	地域・在宅療養の支援 看護の提供方法	講義	
3 (1)	地域・在宅療養の支援 意思決定支援 調整	講義	
4 (1)	地域・在宅療養の支援 退院支援 退院調整	講義	
5 (1)	入退院時支援 多職種との連携 医療機関	講義	
6 (1)	入退院時支援 多職種との連携 施設	講義	
7 (1)	ケアマネジメント 概念	講義	
8 (1)	ケアマネジメント 要素・機能・過程	試験	
9 (1)	社会資源の活用	講義	
10 (1)	介護保険制度におけるマネジメント	講義	
11 (1)	多職種連携 (在宅・医師・地域・ネットワーク)	講義	
12 (1)	療養上のリスクマネジメント 特徴	講義	
13 (1)	療養上のリスクマネジメント 安全確保	講義	
14 (1)	療養上のリスクマネジメント 感染防止 災害	講義	
15 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト 統合分野 在宅看護論 医学書院			
その他			

地域・在宅看護論方法論Ⅱ 看護方法と技術		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：長谷川 理恵（看護師） 会津中央病院で29年の実務経験			
分野 専門分野 地域・在宅看護論			
学習目標			
1 地域・在宅看護における看護の実際について理解する			
2 地域・在宅における疾患別状態別看護について理解する。（終末期含む）			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	地域・在宅で看護を展開するにあたって 地域・在宅で求められる技術	講義	
2 (2)	食生活 嚥下、排泄、移乗・移動動作に関する地域・在宅看護技術	講義	
3 (2)	認知症・終末期の看護アセスメント法と援助技術	講義	
4 (2)	褥瘡、留置カテーテルの看護と技術	講義	
5 (2)	ストーマ 経管栄養	講義	
6 (2)	地域・在宅における中心静脈栄養法（HPN）非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 酸素療法（HOT）人工呼吸療法（HMV）	講義	
7 (2)	疼痛緩和ケア 看護介入時時期別の特徴	講義	
8 (2)	脳卒中をおこした患者の地域・在宅療養導入の事例展開	講義	
9 (2)	脳卒中をおこした患者の地域・在宅療養導入の事例展開 GW 発表	講義・ GW	
10 (2)	パーキンソン病の療養者に対する地域・在宅看護の事例展開	講義	
11 (2)	認知症・小児の療養者に対する地域・在宅看護の事例展開	講義	
12 (2)	ALSで人工呼吸療法実施する療養者の地域・在宅看護の事例展開	講義	
13 (2)	COPD療養者に対する地域・在宅看護の事例展開 GW 発表	講義・ GW	
14 (2)	独居・終末期の療養者に対する地域・在宅看護の事例展開	講義	
15 (1)	統合失調症の療養者に対する地域・在宅看護の事例展開	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法		筆記試験	
テキスト		統合分野 在宅看護論 医学書院	
その他			

成人看護学概論		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員） 会津中央病院他施設等で14年の実務経験			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標			
1 成人期にある対象の生物学的、心理学的、生活形態の特徴について理解する。			
2 成人看護の対象により、看護の目的が変わる状況について理解する。			
3 成人看護の目的と機能を理解する。			
4 発達段階から対象を捉え看護学を発展させることができる。			
5 成人期にある対象の健康に影響する因子を理解し、健康を維持や予防・回復・促進・増進をするための看護の役割について理解する。			
6 健康障害がある成人期の特徴について理解する。			
7 疾病・障害や治療に伴う対象の急激な身体変化や心身の反応、日常生活や生命維持が困難な対象およびその家族の看護問題を理解する。			
8 成人看護の基礎的能力を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	成人看護学の位置づけ 成人とは	講義	
2 (3)	成人看護学が対象とする人の理解 成人各期の特徴、健康問題	GW	
3 (2)	雇用形態 家族の形態 形態変化に伴う問題	講義	
4 (2)	栄養・食生活の特徴	講義	
5 (2)	生活習慣に関連する健康障害－生活習慣病	講義	
6 (1)	職業に関連する健康問題－業務上疾病	講義	
7 (2)	大人の生活から捉える健康	講義	
8 (2)	意思決定支援	講義	
9 (2)	DVD	DVD	
10 (1)	大人の学習	講義	
11 (2)	人生の最期のときを支える看護 デスエデュケーション	講義	
12 (2)	急激な健康破綻に陥った人の看護	講義	
13 (2)	自己効力を高めるアプローチ法	講義	
14 (2)	障害をもつ人の障害の認識過程	講義	
15 (2)	DVD	DVD	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法			
筆記試験 レポート			
テキスト・参考書			
小松浩子他：専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学概論，医学書院。 国民衛生の動向，厚生統計協会。			
その他			

<b>成人看護学方法論Ⅰ 運動器看護</b> 担当：高橋 とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） ＊呼吸器看護15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害のある成人期の特徴について理解する。 2 成人期にある人々の生活機能障害とそれに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を理解する。 3 生活機能障害から回復適応への援助技術を習得する。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行うための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	運動器疾患を持つ患者の身体的問題、運動器看護の基礎知識	講義	
2 (1)	運動器看護の基礎知識（関節可動域・良肢位）	講義	
3 (1)	運動器看護の基礎知識（MMT・運動療法）	講義	
4 (1)	臥床による安静療法のリスク（深部静脈血栓症とその予防）	講義	
5 (2)	主な神経麻痺症状と看護 循環障害と看護 ギプス固定の目的と方法	講義	
6 (1)	牽引療法と看護	講義	
7 (2)	主な疾患の看護（大腿骨頸部骨折）	講義	
8 (1)	主な疾患の看護（変形性股関節症）	講義	
9 (2)	主な疾患の看護（腰椎椎間板ヘルニア・脊髄損傷）	講義	
10 (2)	主な疾患の看護（四肢切断・関節リウマチ）	講義	
11 (1)	まとめ 試験	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学Ⅰ 運動器  その他			

<b>成人看護学方法論Ⅰ 呼吸器看護</b> 担当：矢沢 綾花（看護師） 会津中央病院で15年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） ＊運動器看護15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期にある人々の生活機能障害とそれに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を理解する。 3 生活機能障害から回復適応への援助技術を習得する。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行うための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	症状のある患者の看護	講義	
2 (2)	検査を受ける患者・治療、処置を受ける患者の看護	講義	
3 (2)	疾患を持つ患者の看護 1	講義	
4 (2)	疾患を持つ患者の看護 2	講義	
5 (2)	フィジカルアセスメント	演習	
6 (2)	呼吸リハビリテーション	演習	
7 (2)	集中ケア認定看護師とは	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 浅野浩一郎他：専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器，医学書院。  その他			

<b>成人看護学方法論Ⅱ 循環器看護</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *救急看護15時間、脳神経看護15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：本田 めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標			
1 健康障害がある成人期の特徴について 理解する。			
2 急性展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。			
3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出することができる。			
4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	解剖生理 刺激伝導系 ポンプ機能	講義	
2 (1)	解剖生理 心周期 心音	講義	
3 (1)	検査 心電図とは	講義	
4 (2)	不整脈	講義	
5 (1)	検査 胸部レントゲン(心胸郭比 胸水 うっ血像などの見方) 心エコー	講義	
6 (1)	検査 心臓カテーテル検査	講義	
7 (1)	検査 心臓カテーテル検査と看護	講義	
8 (1)	看護 心臓リハビリテーション	講義	
9 (2)	看護 心不全の看護	講義	
10 (2)	看護 冠状動脈疾患患者の看護	講義	
11 (1)	看護 動脈・静脈の看護	講義	
12 (1)	まとめ	講義	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 循環器			
その他			

<b>成人看護学方法論Ⅱ 脳神経看護</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *救急看護15時間、循環器看護15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員） 会津中央病院で14年の実務経験			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標			
1 健康障害がある成人期の特徴について 理解する。			
2 急性展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。			
3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出することができる。			
4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	患者の概況、脳の構造と機能	講義	
2 (2)	脳の血管系の理解 意識障害、頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニアの理解	講義	
3 (2)	運動麻痺のある患者の看護 運動麻痺と障害部位の関連事例に対する看護を考える～運動障害の強い患者	講義	
4 (2)	運動麻痺のある患者の看護 事例に対する看護を考える ・身体認識のできない患者 嚥下障害のある患者の看護 嚥下障害と障害部位の関連	講義	
5 (2)	嚥下障害のある患者の看護 事例(3例)に対する看護	講義	
6 (2)	検査を受ける患者の看護 CT、脳血管撮影、脳脊髄液検査	講義	
7 (2)	言語障害のある患者の看護 まとめ	講義	
8 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 脳・神経			
その他			

<b>成人看護学方法論Ⅱ 救急看護</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *脳神経看護15時間、循環器看護15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：本田 めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験 伊藤 和也（看護師） 会津中央病院で22年の実務経験			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 急性展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出することができる。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	救命救急医療	講義	
2 (1)	救急看護とは	講義	
3 (1)	一次・二次・三次救命医療	講義	
4 (1)	プレホスピタルケア 救急救命士制度	講義	
5 (1)	Bystander	講義	
6 (1)	BLS ACLSについて 救急薬品	講義	
7 (1)	災害時の役割 トリアージタッグ	講義	
8 (1)	ショック	講義	
9 (1)	救急看護の実際	講義	
10 (1)	重症患者・家族の反応	講義	
11 (1)	外傷看護	講義	
12 (1)	熱傷看護	講義	
13 (2)	BLS の実際	演習	
14 (1)	試験		
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 医学書院 別巻 救急看護学  その他			

<b>成人看護学方法論Ⅲ 外科看護</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位40時間（15時間） *消化器看護10時間、腎泌尿器看護15時間と合わせて40時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：高橋 恵（看護師）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解できる。 2 慢性的長期展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出することができる。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。 5 周手術期の急激な病態の変化や治療とその影響について理解し、各期に応じた看護を行うための基礎的知識を習得する。 6 がんを患っている対象の病態や、治療とその影響を理解し、各期に応じた看護を行うための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	術前・術後の看護	講義	
2 (2)	ドレーン管理	講義	
3 (2)	甲状腺疾患・術前後の看護	講義	
4 (2)	乳房疾患・術前後の看護	講義	
5 (2)	上部消化管・術前後の看護	講義	
6 (2)	下部消化管・術前後の看護	講義	
7 (2)	手術室での看護	講義	
8 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 医学書院 別巻 臨床外科看護総論・臨床外科看護各論  その他			

成人看護学方法論Ⅲ 消化器看護		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位40時間（10時間） ＊外科看護15時間、腎泌尿器看護15時間と合わせて40時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：堤 千恵（専任教員）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 消化器疾患の外科的治療を受ける患者の周手術期看護について理解する。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1（2）	主な消化器症状と看護	講義	
2（2）	主な疾患と看護（上部消化管）	講義	
3（2）	〃（下部消化管）	講義	
4（1）	〃（肝臓）	講義	
5（1）	〃（胆嚢）	講義	
6（1）	〃（膵臓）	講義	
7（1）	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 消化器			
その他			

成人看護学方法論Ⅲ 腎・泌尿器看護		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位40時間（15時間） ＊外科看護15時間、消化器看護10時間と合わせて40時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：渡部 利恵（看護師）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 外科的治療を受ける患者の周手術期看護について理解する。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1（2）	腎臓の構造と機能	講義	
2（1）	症状と検査	講義	
3（1）	慢性腎不全における治療 人工透析①	講義	
4（1）	人工透析② 慢性・急性腎不全治療法 シヤントまで	講義	
5（1）	人工透析③ 慢性腎不全治療 透析のまとめ	講義	
6（1）	食事 運動 その他症状	講義	
7（1）	腎臓疾患の看護、検査の看護	講義	
8（1）	患者の看護 血尿 尿失禁	講義	
9（1）	〃 尿路感染症 前立腺肥大症	講義	
10（1）	〃 癌 膀胱全摘・尿路変更術	講義	
11（1）	〃 尿路結石症	講義	
12（1）	発生・発育の異常 不妊症 機能障害	講義	
13（1）	化学療法・放射線療法を受ける患者の看護	講義	
14（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 腎・泌尿器			
その他			

成人看護学方法論Ⅳ 内分泌・代謝看護		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *アレルギー・膠原病看護5時間、放射線10時間、 臨床判断能力演習15時間で合わせて45時間 開講形態：講義 演習 週割当時間：2時間	
担当：西郷 和枝（看護師）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 慢性的長期展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1（2）	内分泌・代謝疾患の看護	講義	
2（2）	下垂体疾患患者の看護	講義	
3（2）	甲状腺・副甲状腺疾患患者の看護	講義	
4（2）	代謝疾患患者の看護 肥満症	講義	
5（2）	糖尿病患者の看護 セルフケア	講義	
6（2）	〃 ライフステージ別課題と患者教育 教材作成・発表	講義	
7（2）	演習：自己血糖測定 インスリン自己注射	演習	
8（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 演習参加態度 レポート			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 内分泌・代謝			
その他			

成人看護学方法論Ⅳ アレルギー・膠原病看護		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（5時間） *内分泌・代謝看護15時間、放射線10時間、 臨床判断能力演習15時間で合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：渡部 裕美子（専任教員）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1（1）	アレルギー疾患の振り返り アレルギーとは 検査	講義	
2（1）	アレルギー患者の看護	講義	
3（1）	膠原病とは SLE患者の看護	講義	
4（1）	強皮症の患者の看護	講義	
5（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 アレルギー・膠原病 感染			
その他			



成人看護学方法論Ⅳ 放射線		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（10時間） *内分泌・代謝看護15時間、アレルギー・膠原病看護5時間、 臨床判断能力演習15時間で合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：宍戸 文男（医師）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (1)	放射線の基礎（言葉の意味 エックス線の発生）	講義	
2 (1)	放射線診断 X線診断	講義	
3 (1)	〃 CT	講義	
4 (1)	〃 MRI	講義	
5 (1)	〃 IVR	講義	
6 (1)	〃 血管造影	講義	
7 (1)	〃 超音波画像診断	講義	
8 (1)	核医学検査	講義	
9 (1)	放射線治療	講義	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 医学書院 別巻 臨床放射線医学			
その他			

成人看護学方法論Ⅳ 臨床判断能力演習		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *内分泌・代謝看護15時間、アレルギー・膠原病看護5時間、 放射線10時間で合わせて45時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：二瓶 キヨ子（専任教員）			
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 3 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方 法	備 考
1 (2)	臨床判断能力とは 演習事例	講義	
2 (2)	事例による演習	演習	
3 (2)	事例による演習	演習	
4 (2)	事例による演習	演習	
5 (2)	事例による演習	演習	
6 (2)	事例による演習	演習	
7 (2)	演習発表	演習	
8 (1)	まとめ	演習	
成績評価方法 演習内容により評価			
テキスト・参考書 医学書院：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 阿部俊子 監修：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図. 中央法規			
その他			

<b>成人看護学方法論Ⅴ 女性生殖器看護</b> 担当：根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位30時間（10時間） ＊感覚器看護10時間、血液看護10時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 慢性的長期展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	診察の介助における看護 性周期と性ホルモン 月経異常患者の看護	講義	
2 (2)	月経随伴症状のある患者の看護 グループワーク「6項目」 ①性感染症とその治療・予防、帯下掻痒感のある患者の看護 ②子宮筋腫・子宮がんの病態と治療、その看護 ③不妊症とは、その看護 ④更年期障害とその看護、自律神経失調症・不定愁訴のある患者の看護 ⑤萎縮性膀胱炎・尿もれのある患者の看護 ⑥外生殖器・内生殖器の手術を受ける患者の看護	講義	
3 (2)	グループワーク	講義	
4 (2)	発表①～③ まとめ	講義	
5 (2)	発表④～⑥ まとめ	講義	
6 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 女性生殖器  その他			

<b>成人看護学方法論Ⅴ 感覚器看護</b> 担当：高橋 とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位30時間（10時間） ＊女性生殖器看護10時間、血液看護10時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 慢性的長期展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	皮膚科看護 皮膚の構造 症状 治療法	講義	
2 (1)	アトピー性皮膚炎患者の看護	講義	
3 (1)	熱傷・褥瘡患者の看護・過去問	講義	
4 (1)	眼科看護 検査時の看護 白内障患者の看護	講義	
5 (1)	糖尿病性網膜症 網膜剥離術後の看護	講義	
6 (1)	緑内障患者の看護 過去問	講義	
7 (1)	耳鼻科看護 鼻出血 副鼻腔炎患者の看護	講義	
8 (1)	聴力障害のある患者の看護	講義	
9 (1)	めまいのある患者の看護 過去問	講義	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 メジカルフレンド社 成人看護学⑫⑬ 皮膚/眼 耳鼻咽喉/歯・口腔  その他			

<b>成人看護学方法論Ⅴ 血液看護</b> 担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位30時間（10時間） ＊女性生殖器看護10時間、感覚器看護10時間、と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 成人看護学			
学習目標 1 健康障害がある成人期の特徴について理解する。 2 慢性的長期展開する疾患または病態の人への援助技術を習得する。 3 成人期に発生しやすい疾病、生態機能障害を予防し、健康を維持や予防・回復・促進・増進するため、健康問題を抽出できる。 4 成人期の健康障害をもつ対象を理解し、適切な看護を行なうための基礎的知識を習得する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	血液の機能と成分 患者の特徴	講義	
2 (1)	主要症状のある患者の看護（貧血）	講義	
3 (1)	主要症状のある患者の看護（出血傾向）	講義	
4 (1)	主要症状のある患者の看護（易感染）	講義	
5 (1)	造血器腫瘍患者の看護 化学療法の主な副作用対応	講義	
6 (1)	白血病患者の事例を用いて アセスメント 問題点の抽出 計画立案	講義	
7 (1)	造血器腫瘍患者の看護（悪性リンパ腫） 放射線治療における看護	講義	
8 (1)	造血幹細胞移植 移植前の患者の看護	講義	
9 (1)	移植後の患者の看護	講義	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 医学書院 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 成人看護学 血液・造血  その他			

<b>老年看護学概論 概論・保健</b> 担当：高橋 とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 老年看護学			
学習目標 1 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的変化を知り老年のライフステージとその健康課題を理解する。 2 超高齢社会と社会保障について理解する。 3 老年看護のなりたちについて理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	老年看護学の発展、高齢者に対するイメージ	講義	
2 (1)	高齢者に対するイメージのアンケート結果 老年期	講義	
3 (1)	加齢に伴う身体機能の変化（症状・疾患を考える）	講義	
4 (2)	加齢に伴う身体機能の変化 GW	GW	
5 (3)	GWの発表 1～8 G	GW	
6 (2)	老年期の身体的・心理的・社会的側面	講義	
7 (2)	高齢社会の統計 高齢化・高齢者のいる世帯	講義	
8 (2)	高齢者の統計 高齢者の死亡・高齢者の暮らし	講義	
9 (2)	保健医療福祉制度の変遷 老人福祉法	講義	
10 (2)	実習で感じたこと 健康寿命	講義	
11 (2)	健康長寿の秘訣 高齢者の差別	講義	
12 (2)	高齢者虐待	講義	
13 (2)	身体への拘束	講義	
14 (2)	成年後見制度 日常生活自立支援 老年看護の原則	講義	
15 (3)	認知症の高齢者の理解・介護 DVD「折り梅」	DVD	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働白書  その他			

<b>老年看護学方法論Ⅰ 日常看護</b> 担当：堤 千恵（専任教員） 福島県立会津総合病院他で32年の 実務経験		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 老年看護学			
学習目標 1 高齢者のヘルスアセスメントを理解する。 2 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。 3 健康逸脱からの回復を促す看護を理解する。 4 治療を必要とする高齢者の看護を理解する。 5 紙上事例を通し、高齢者の看護過程が展開できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	高齢者の特性（老年看護学概論の振り返り）	講義	
2 (2)	高齢者の身体機能の変化とアセスメント（皮膚/感覚器）	講義	
3 (2)	〃（循環器）	講義	
4 (2)	〃（呼吸器）	講義	
5 (2)	〃（消化器/ホルモン）	講義	
6 (2)	〃（泌尿生殖器/運動器）	講義	
7 (2)	日常生活を支える基本的活動（基本動作/転倒）	講義	
8 (2)	廃用症候群	講義	
9 (2)	日常生活を支える基本的活動（食生活）	講義	
10 (2)	高齢者の生活機能を整える看護（食事/排泄/清潔/	GW	
11 (2)	〃 生活リズム/社会参加)	レクチャー	
12 (1)	中間試験	試験	
13 (2)	高齢者に多い身体症状と看護（発熱/疼痛/掻痒/脱水/	講義	
14 (2)	浮腫/嘔吐/下痢)	講義	
15 (2)	身体症状に対する生活指導（パンフレット指導の実際）	個人ワーク	
16 (2)	〃	発表	
17 (2)	疾患を持つ高齢者への看護（脳血管障害/心不全/肺炎）	講義	
18 (2)	〃（パーキンソン病/骨粗鬆症）	講義	
19 (2)	認知症患者の看護	講義	
20 (2)	治療を必要とする高齢者への看護	講義	
21 (2)	〃	講義	
22 (2)	老年患者の看護過程の展開（紙上事例）	GW	
23 (2)	〃（発表とまとめ）	GW	
24 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 演習、GW 参加状況、筆記試験 テキスト・参考書 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院			

<b>老年看護学方法論Ⅱ 看護の展開</b> 担当：荒明 喜代子看護師) 会津中央病院で35年の実務経験		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *看護の展開15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 老年看護学			
学習目標 1 生活・療養の場における看護の展開を理解する。 2 高齢者のリスクマネジメントについて理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	高齢者とヘルスプロモーション	講義	
2 (2)	保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義	
3 (2)	治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義	
4 (1)	他職種連携実践による活動	講義	
5 (2)	高齢者と医療安全	講義	
6 (2)	高齢者と救命救急	講義	
7 (2)	高齢者と災害	講義	
8 (1)	まとめ	講義	
9 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 その他			

<b>老年看護学方法論Ⅱ 看護の展開</b> 担当：堤 千恵（専任教員） 福島県立会津総合病院他で32年の実務経験		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） ＊看護の展開15時間（荒明）と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 老年看護学			
学習目標 1 エンドオブライフケアについて理解する。 2 施設で生活する高齢者を理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	エンドオブライフケア・意思決定への支援・末期段階に求められる援助	講義	
2 (2)	エンディングノートとは	DVD鑑賞	
3 (1)	施設見学 OR・高齢者のレクリエーション	講義	
4 (1)	レクリエーションの考案と作成	GW	
5 (6)	施設で生活する高齢者の理解	実習	
6 (2)	施設実習の振り返り・共通理解	GW	
7 (1)	試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 その他			

<b>小児看護学概論 概論・保健</b> 担当：鈴木 洋子(看護師、保健師、助産師) 国立病院、保健福祉事務所等で38年実務経験		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間 開講形態：講義・GW・演習 週割当時間：2時間	
分野 専門分野 小児看護学			
学習目標 1 小児看護の機能と役割を理解する。 2 小児の身体的成熟過程、心理的発達過程、社会性の発達過程を理解する。 3 小児の成長発達過程に応じた生活支援の在り方を理解する。 4 健康増進のための健康教育や保健指導について理解する。 5 小児とその家族を支える社会のサポートシステムを理解する。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	小児看護の目的・方向性、小児と家族の諸統計	講義	
2 (2)	成長・発達論 成長発達に影響する因子	講義	
3 (2)	成長発達の評価	講義	
4 (2)	新生児の生理とアセスメント 育児	講義	
5 (2)	乳児の成長発達	講義	
6 (2)	乳児の栄養	講義	
7 (2)	幼児の成長発達 学童期の成長発達	講義	
8 (1)	幼児の栄養	講義	
9 (1)	中間試験	試験	
10 (1)	子どもの栄養	講義	
11 (2)	学童、思春期・青年期の栄養	講義	
12 (2)	思春期・青年期の成長発達	講義	
13 (2)	子どもと家族を取り巻く社会、児童福祉法とその歴史	講義	
14 (2)	母子保健について	講義	
15 (2)	予防接種、学校保健、特別支援教育、臓器移植法	講義	
16 (2)	家族アセスメント 小児看護の特徴と理念	講義	
17 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 その他			

小児看護学方法論Ⅰ 疾患各論		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（30時間） *臨床看護総論15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：1～2時間	
担当：岸 幹二（医師）			
分野 専門分野 小児看護学			
学習目標 1 さまざまな発達段階にある子どもの健康問題の特徴を理解する。 2 小児に特有な系統別疾患の病態と治療、検査について理解し、小児の健康問題に応じた観察力を養う。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (3)	感染症疾患と予防接種	講義	
2 (2)	循環器疾患	学習発表・講義	
3 (2)	消化器疾患	学習発表・講義	
4 (2)	血液・造血器疾患	学習発表・講義	
5 (2)	腎・泌尿器系の疾患	学習発表・講義	
6 (2)	神経系の疾患	学習発表・講義	
7 (1)	運動器疾患	学習発表・講義	
8 (1)	皮膚疾患	学習発表・講義	
9 (1)	眼疾患	学習発表・講義	
10 (1)	耳鼻咽喉疾患	学習発表・講義	
11 (1)	精神疾患	学習発表・講義	
12 (1)	事故	学習発表・講義	
13 (1)	虐待	学習発表・講義	
14 (2)	新生児疾患と集中治療	学習発表・講義	
15 (1)	代謝性疾患	学習発表・講義	
16 (1)	内分泌疾患	学習発表・講義	
17 (2)	アレルギー疾患	学習発表・講義	
18 (1)	リウマチ性疾患	学習発表・講義	
19 (1)	免疫不全	学習発表・講義	
20 (1)	腹痛性疾患	学習発表・講義	
21 (1)	まとめ 試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 小児看護各論 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社 その他			

小児看護学方法論Ⅰ 臨床看護総論		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *疾患各論30時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：1～2時間	
担当：高橋 とも子（専任教員）			
分野 専門分野 小児看護学			
学習目標 1 健康問題を抱える子どもと、その家族の特徴を理解する。 2 健康問題に応じた経過別、症状別、治療処置別看護の基本的な援助方法を理解する。 3 小児看護の特殊技術を理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (2)	小児各期の発達課題と成長発達 発達スクリーニング	講義	
2 (2)	身体の成熟とバイタルサイン、測定方法と留意 身体の発達と身体計測、測定方法と留意	講義	
3 (2)	インフォームドアセントとプレパレーション	講義	
4 (2)	外来の環境と看護の役割 小児病棟の機能と看護師の役割	講義	
5 (2)	経過別看護（急性期・慢性期・終末期）	講義	
6 (2)	症状別看護（発熱時の看護） 治療処置別看護（与薬：経口・坐薬）	講義	
7 (1)	症状別看護（脱水） 治療処置別看護（与薬：輸液療法）	講義	
8 (1)	治療処置別看護（吸入・吸引・酸素吸入）	講義	
9 (1)	まとめ 試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 写真で分かる小児看護技術 インターメディカ その他			

小児看護学方法論Ⅱ 臨床看護各論		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位 30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：高橋とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験			
分野 専門分野 小児看護学			
学習目標 1 健康問題を抱える子どもとその家族を総合的に捉え、適切な看護を提供するための援助方法を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	新生児、染色体異常・先天異常児の看護	講義	
2 (2)	免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患患児の看護	講義	
3 (2)	感染症疾患患児の看護	講義	
4 (2)	腎・泌尿器・生殖器疾患患児の看護	講義	
5 (1)	呼吸器疾患患児の看護	講義	
6 (2)	代謝性疾患・内分泌疾患患児の看護	試験	
7 (2)	循環器疾患患児の看護	講義	
8 (2)	消化器疾患患児の看護	講義	
9 (2)	血液造血器疾患・悪性新生物疾患患児の看護	講義	
10 (2)	神経疾患患児の看護	講義	
11 (2)	運動器疾患患児の看護	講義	
12 (2)	感覚器疾患患児の看護	試験	
13 (2)	精神疾患患児の看護	講義	
14 (1)	事故・外傷児の看護	講義	
15 (2)	不登校・虐待児の看護	講義	
16 (2)	まとめ 試験	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 小児臨床看護各論 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社 写真で分かる小児看護技術 インターメディカ その他			

母性看護学概論 概論		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *保健15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 母性看護の概念を理解する。 2 母性看護の歴史の変遷と現状を理解する。 3 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	母性の定義 ジカ熱小頭症	講義	
2 (2)	愛着・母子相互作用と母子関係形成	講義	
3 (2)	セクシャリティ リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション（エンパワメント・セルフケア）	講義	
4 (1)	母性看護における倫理	講義	
5 (2)	母性看護における安全・事故防止 母性看護の歴史の変遷と現状	講義	
6 (2)	母子保健統計の動向 母子に関わる社会資源	講義	
7 (1)	母子に関わる社会資源まとめ	講義	
8 (2)	母性・父性・親性 DVD「そして父になる」 課題	DVD	
9 (1)	性周期 GW	講義・GW	
10 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 母性看護学（1）母性看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向 その他			

母性看護学概論 保健		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *概論15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：渡部 和枝（助産師） 会津中央病院で33年の実務経験			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 母性看護の概念を理解する。 2 母性看護の動向から課題を考える。 3 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	母性看護に必要な看護技術	講義	
2 (2)	母性看護に必要な看護技術	講義	
3 (2)	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	講義	
4 (2)	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	講義	
5 (2)	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	講義	
6 (2)	リプロダクティブヘルスケア	講義	
7 (2)	リプロダクティブヘルスケア	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 母性看護学（1）母性看護学概論（医学書院）			
その他			

母性看護学方法論Ⅰ 正常編・看護技術		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（25時間） *疾患各論20時間と合わせて45時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：根本 佳奈（専任教員）			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 生命誕生を援助する看護者としての倫理観を理解する。 2 周産期の看護ができる能力を習得する。 3 妊娠・分娩・産褥の期間を通して、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話ができるよう援助の方法を学ぶ。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション 妊娠成立・生理 ビデオ	講義・ビデオ	
2 (2)	妊婦の看護	講義	
3 (2)	妊娠のアセスメント 妊婦健康診査 産科的診察法	講義	
4 (2)	妊婦と家族の看護 妊娠の届出 母子手帳 食生活	講義	
5 (2)	妊娠中のトラブル予防と生活 つわり、貧血、高血圧症候群、カフェイン、たばこ、アルコール	講義	
6 (2)	排泄、清潔、衣生活について 休養と活動について	講義	
7 (2)	旅行、勤労、性生活、マイナートラブル、分娩準備教育	講義	
8 (2)	分娩準備教育（入院、育児、乳房ケア） 実習（レオポルド、妊婦体験、乳房マッサージ）	演習	
9 (2)	分娩期の看護 DVD 出産 分娩経過について	DVD	
10 (2)	〃 安全・安楽への看護	講義	
11 (2)	〃 疼痛緩和 産褥の生理・アセスメント	講義	
12 (2)	産褥期の看護	講義	
13 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 母性看護学（2）母性看護学各論（医学書院）			
その他			



母性看護学方法論Ⅰ 疾患各論		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（20時間） *正常編・看護技術25時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：古川 結香（医師）			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 生命誕生を援助する看護者としての倫理観を理解する。 2 周産期の看護ができる能力を習得する。 3 妊娠・分娩・産褥の期間を通して、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話ができるよう援助の方法を学ぶ。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（1）	妊娠・家族計画	講義	
2（1）	妊娠による生理的变化 胎児・胎盤・羊水	講義	
3（1）	妊娠悪阻 流産	講義	
4（1）	異所性妊娠 妊娠中の注意点	講義	
5（2）	感染 早産 母体搬送	講義	
6（2）	双胎妊娠 高齢・若年妊婦 出生前診断	講義	
7（2）	妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病	講義	
8（2）	胎盤の異常 胎児心拍モニタリング 過期妊娠	講義	
9（2）	血液型不適合妊娠 正常分娩	講義	
10（2）	異常分娩	講義	
11（2）	産褥の異常 不妊症	講義	
12（1）	試問対策	講義	
13（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 母性看護学（2）母性看護学各論（医学書院） その他			

母性看護学方法論Ⅱ 異常編		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *新生児15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：安齋 真理（助産師） 会津中央病院で16年の実務経験			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 母性の健康上に問題を解決するため看護過程を展開する。 2 母性看護の特殊技術について習得する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（1）	妊娠の異常と看護 高齢・若年妊婦	講義	
2（1）	肥満・勤労妊婦・やせ妊婦 ART後の妊婦・母子感染	講義	
3（1）	心疾患・糖代謝異常	講義	
4（1）	婦人科疾患・妊娠高血圧症候群	講義	
5（1）	切迫流産・多胎	講義	
6（1）	その他の問題を持つ妊婦の看護	講義	
7（1）	分娩の異常と看護 破水時の看護	講義	
8（1）	分娩遷延のリスク・胎児機能不全の看護	講義	
9（1）	帝王切開術を受ける産婦の看護	講義	
10（1）	前置胎盤・胎盤早期剥離・異常出血	講義	
11（1）	産褥の異常と看護 子宮復古不全・産褥熱	講義	
12（1）	乳房トラブル・感染症を持つ褥婦の看護	講義	
13（1）	母子分離・児を亡くした褥婦と家族の看護	講義	
14（1）	精神障害合併妊婦と家族の看護	講義	
15（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト・参考書 母性看護学（2）母性看護学各論（医学書院） その他			

母性看護学方法論Ⅱ 新生児		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *異常編15時間と合わせて30時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験			
分野 専門分野 母性看護学			
学習目標 1 母性の健康上に問題を解決するため看護過程を展開する。 2 母性看護の特殊技術について習得する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	新生児の定義	講義	
2 (2)	新生児の機能 呼吸・循環	講義	
3 (1)	糖 ビリルビン代謝 生理的黄疸	講義	
4 (1)	消化器系と栄養	講義	
5 (1)	出生直後の看護 アプガースコア シルバーマンスコア	講義	
6 (1)	新生児反射 マスククリーニング	講義	
7 (1)	聴力 生理的体重減少	講義	
8 (2)	沐浴	演習	
9 (1)	ハイリスク新生児の看護 低出生体重児 感染症	講義	
10 (1)	高ビリルビン血症 光線療法	講義	
11 (1)	頭血腫 産瘤	講義	
12 (1)	プロフェッショナル仕事の流儀「ただ生まれる命のために」	DVD	
13 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 母性看護学（2）母性看護学各論（医学書院）			
その他			

精神看護学概論 概論		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *保健15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：二瓶 キヨ子（専任教員） 会津中央病院他施設等で12年の実務経験			
分野 専門分野 精神看護学			
学習目標 1 精神看護の概要を理解する。 2 精神看護の目的・対象・特徴・機能・役割を理解する。 3 精神保健医療と看護の歴史の変遷を理解する。 4 これからの精神看護における課題を理解する。 5 現代社会の精神問題について理解する。			
回数 及び時間	授 業 内 容	方法	備考
1 (1)	精神看護学の考え方 現代社会の特徴と問題	講義	
2 (1)	精神看護の考え方	講義	
3 (1)	精神看護の基本理念	講義	
4 (1)	看護理論 オレムのセルフケア理論 ペプロウの看護理論	講義	
5 (1)	ペプロウの看護理論・プロセスレコード	講義	
6 (2)	プロセスレコード・精神医療看護の歴史（欧米・日本）	講義	
7 (2)	精神保健福祉法について	講義	
8 (2)	精神保健福祉法（入院形態について） 精神保健福祉法以外の法律	講義	
9 (2)	精神障害の現状・諸統計	講義	
10 (1)	リエゾン精神看護	講義	
11 (1)	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 精神看護学Ⅰ 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 精神看護学Ⅱ 精神障害と看護の実践 メディカ出版			
その他			

<b>精神看護学概論 保健</b>		開講学年：第1学年 開講学期：後期 単位数：1単位30時間（15時間） *総論15時間と合わせて30時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員） 会津中央病院他施設等で14年の実務経験			
分野 専門分野 精神看護学			
学習目標 1 精神看護の概要を理解する。 2 これからの精神看護における課題を理解する。 3 人間の心の働きを理解する。 4 現代社会の精神問題について理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（2）	フロイトの精神構造	講義	
2（2）	防衛機制・エリクソンの発達課題	講義	
3（2）	フロイトの発達課題・ピアジェの発達課題	講義	
4（1）	ストレス・危機理論	講義	
5（1）	危機の諸相（各発達段階での危機）	講義	
6（1）	（虐待・DV）	講義	
7（2）	（アルコール依存症・災害）	講義	
8（2）	ジョハリの窓	講義	
9（1）	DVD「自閉症の君が教えてくれたこと」	DVD	
10（1）	終講試験	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 精神看護学Ⅰ 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版  その他			

<b>精神看護学方法論Ⅰ 保健</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（15時間） *疾患30時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：2時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員）			
分野 専門分野 精神看護学			
学習目標 1 精神保健の概念を理解する。 2 現代社会の特徴と、心の健康の維持・促進への援助方法を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1（2）	国際障害者分類 ノーマライゼーション	講義	
2（2）	カウンセリング技法	講義	
3（2）	DVD「ツレがうつになりました」	DVD	
4（2）	精神の健康の啓蒙活動	講義	
5（2）	リカバリー・エンパワメント・ストレス・レジリエンスについて	講義	
6（2）	事例を通してプロセスレコードの再構成	講義	
7（2）	映画『A Beautiful Mind』を見て まとめ	DVD	
8（1）	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験  テキスト・参考書 精神看護学Ⅰ 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版  その他			

<b>精神看護学方法論Ⅰ 疾患</b>		開講学年：第2学年 開講学期：前期 単位数：2単位45時間（30時間） *精神保健15時間と合わせて45時間 開講形態：講義 週割当時間：3時間	
担当：古関 雅章（医師）			
分野 専門分野 精神看護学			
学習目標 1 精神の疾患・障害の概念や診断・治療法の正確な知識を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (3)	精神障害の診断と検査	講義	
2 (3)	主な精神障害の治療（薬物療法）	講義	
3 (3)	主な精神障害の治療（精神療法）	講義	
4 (3)	主な疾患：統合失調症	講義	
5 (3)	主な疾患：気分障害	講義	
6 (3)	主な疾患：神経症・	講義	
7 (3)	主な疾患：心身症・人格障害	講義	
8 (3)	主な疾患：てんかん・アルコール依存	講義	
9 (3)	主な疾患：認知症	講義	
10 (2)	主な疾患：発達障害（自閉症・ADHD・拒食症）	講義	
11 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 精神看護学Ⅱ 精神障害と看護の実践 メディカ出版			
その他			

<b>精神看護学方法論Ⅱ 精神科看護</b>		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位30時間 開講形態：講義 週割当時間：2～4時間	
担当：長岡 由浩（看護師） 会津中央病院、会津西病院で22年の 実務経験			
分野 専門分野 精神看護学			
学習目標 1 精神障害者を一人の人間として理解し、人権擁護の考え方を学ぶ。 2 精神障害者に対するの看護の方法・技術を理解する。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	精神看護とは、歴史からみた精神科看護	講義	
2 (2)	精神科における法律・行動制限	講義	
3 (2)	精神障害者の理解・接触法・ よいコミュニケーション	講義	
4 (2)	精神科における観察とその意味	講義	
5 (2)	精神科における事故	講義	
6 (2)	精神科の記録（プロセスレコード）	講義	
7 (2)	家族心理、社会復帰、地域医療、ACT	講義	
8 (2)	症状と看護	講義	
9 (2)	症状と看護	講義	
10 (2)	症状と看護、検査・診察時の看護	講義	
11 (2)	症状別看護のまとめ	講義	
12 (2)	急性期・認知症・依存症・てんかんの看護	講義	
13 (2)	統合失調症の看護	講義	
14 (2)	気分障害の看護	講義	
15 (2)	パニック障害・境界型人格障害の看護 精神科リハビリ	講義	
16 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト・参考書 精神看護学Ⅱ 精神障害と看護の実践 メディカ出版			
その他			

医療安全		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位15時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：2時間	
担当：五十嵐 信子（看護師） 会津中央病院で29年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 人々の健康を守るため医療の安全に関する基本的知識と、実際に活用できる能力を身につける。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	医療安全概論 医療安全の基本的考え方	講義	
2 (2)	医療安全概論 危機の種類や状況	講義	
3 (2)	医療安全予防策 ヒューマンエラーと事例展開	講義	
4 (2)	医療安全各論 医療者が行う侵襲的行為	講義	
5 (2)	医療安全各論 患者の行為に伴う危機 院内感染と危機	講義	
6 (2)	アクシデント発生時の事例展開と予防の3ステップ	講義	
7 (2)	医療安全 事例展開 まとめ	講義	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験 テキスト 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院 その他 看護管理や微生物学・成人看護学等と連携させる。			

国際看護		開講学年：第3学年 開講学期：後期 単位数：1単位15時間 開講形態：講義・講演 週割当時間：2時間	
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 看護を国際的視野で捉え、広く社会に貢献できる能力を養う。			
回数及び時間	授業内容	方法	
1 (1)	国際看護学とは 学ぶ目的	講義	
2 (2)	世界の健康問題の現状	講義・DVD	
3 (2)	国際看護学の基礎知識 グローバルヘルス	講義	
4 (2)	MDGs SDGs	講義	
5 (2)	国際協力のしくみ	講義・DVD	
6 (2)	文化を考慮した看護	講義・DVD	
7 (3)	国際協力等体験者の講演 まとめ	講演	
8 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験・レポート テキスト 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院 その他			

災害看護		開講学年：第3学年 開講学期：後期 単位数：1単位15時間 開講形態：講義・演習 週割当時間：1～2時間	
担当：角田 亮（看護師） 会津中央病院で11年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 災害など特殊な状況の中で人々の生命や健康を支援するための基礎的知識を養う。 2 災害時における人々の心理状況が理解できる能力を身につける。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	災害の定義 分類	講義	
2 (1)	災害の歴史と医療の現状	講義	
3 (2)	救急医療と災害医療	講義	
4 (2)	トリアージ	講義	
5 (2)	看護師の役割	講義	
6 (2)	対象別看護	講義	
7 (2)	心のケア (PTSD など)	講義	
8 (2)	演習 (1例) 災害時のトリアージと救急医療	演習	
9 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験・レポート			
テキスト 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院			
その他 救急看護と連携を図る。			

看護管理		開講学年：第3年 開講学期：後期 単位数：1単位15時間 開講形態：講義 週割当時間：1時間	
担当：落合 直美（看護師） 会津中央病院で34年の実務経験 二瓶 キヨ子（専任教員） 会津中央病院で12年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 看護の対象に質の良いサービスを提供するために必要な知識を理解する。 2 看護のリーダーシップやメンバーシップ・マネジメントシップを身につける。			
回数及び時間	授業内容	方法	備考
1 (1)	看護管理とは、看護におけるマネジメント	講義	
2 (1)	看護管理の変遷 看護の定義	講義	
3 (1)	看護の法的責任・看護業務	講義	
4 (1)	医療制度	講義	
5 (1)	ストレスマネジメント・組織マネジメント	講義	
6 (1)	ケアのマネジメントと看護職の機能	講義	
7 (1)	看護基準・看護手順について	講義	
8 (1)	患者の権利尊重 安全管理	講義	
9 (1)	医療事故・院内感染と管理	講義	
10 (1)	災害と看護管理	講義	
11 (1)	看護職の協働 他職種との協働	講義	
12 (1)	情報管理	講義	
13 (1)	協働のためのマネジメント 情報マネジメント	講義	
14 (1)	サービス評価	講義	
15 (1)	まとめ	試験	
成績評価方法 筆記試験			
テキスト 別巻8 看護管理 医学書院			
その他			

<b>臨床看護学演習 I</b>		開講学年：1年 開講学期：前期 単位数：1単位15時間 開講形態：演習 週割当時間：5～8時間	
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 対象に合わせた看護技術とはどういうことか考えることができる。 2 2・3年と協働演習することにより、チームの在り方、メンバーシップについて理解することができる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション	演習	
2 (2)	1、2、3年で事例検討	演習	
3 (3)	1、2、3年で合同練習	演習	
4 (3)	1、2、3年で合同練習 演習	演習	
4 (3)	事例に合わせた援助技術の提供(演習)	演習	
6 (2)	まとめ	演習	
成績評価方法 レポート・実技から評価表を用いて評価			
テキスト 基礎看護技術 I・II 医学書院			
その他			

<b>臨床看護学演習 II</b>		開講学年：2年 開講学期：前期 単位数：1単位15時間 開講形態：演習 週割当時間：5～8時間	
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 教えることを通して自己の看護技術を客観的に振り返ることができる。 2 1・3年と協働演習することでメンバーシップ リーダーシップについて理解できる。 3 チーム医療について考える機会とする。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション	演習	
2 (2)	理学療法士の講話 意見交換	講義・演習	
3 (2)	1、2、3年で事例検討	演習	
4 (2)	1、2、3年で合同練習	演習	
5 (3)	1、2、3年で合同練習 演習	演習	
6 (2)	事例に合わせた援助技術の提供(演習)	演習	
7 (2)	まとめ	演習	
成績評価方法 レポート・実技から評価表を用いて評価			
テキスト 基礎看護技術 I・II 医学書院			
その他			

<b>臨床看護学演習Ⅲ</b>		開講学年：3年 開講学期：前期 単位数：1単位15時間 開講形態：演習 週割当時間：5～8時間	
担当：水野 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 看護の統合と実践			
学習目標 1 教えることを通して自己の看護技術を客観的に振り返り、臨床判断力を養う。 2 1・2年と協働演習することでメンバーシップ リーダーシップについて理解できる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
1 (2)	オリエンテーション	演習	
2 (2)	1、2、3年で事例検討	演習	
3 (3)	1、2、3年で合同練習	演習	
4 (3)	1、2、3年で合同練習 演習	演習	
4 (3)	事例に合わせた援助技術の提供(演習)	演習	
6 (2)	まとめ	演習	
成績評価方法 レポート・実技から評価表を用いて評価			
テキスト 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院			
その他			

<b>基礎看護学Ⅰ実習</b>		開講学年：第1学年 開講時期：後期 単位数：1単位 45時間 開講形態：実習 週割当時間：45時間	
担当：小池 真由美（専任教員） 会津中央病院、坂下厚生総合病院等で30年の実務経験			
分野 専門分野 臨地実習			
目的 看護の対象としての人間を理解し、日常生活援助の必要性が理解できる。			
目標 1 基本的欲求を理解したうえで、日常生活援助の必要性が理解できる。 2 3年生と実習を実施することで看護とは何かを考えることができる。			
回数 及び時間	授業内容	方法	備考
45時間	1 病院で患者を1名受け持ち、日常生活の援助を行う。 2 3年生と協同する。 実習前半3日半 3年生から OR 半日 3年生とともに実習 3日	実習	
実習施設 会津中央病院 病棟			
成績評価方法 出席状況、実習態度、実習記録などにより総合的に評価する。			
テキスト・参考書 指定しない、各自、関連する文献を活用する。			
その他			



<b>基礎看護学Ⅱ実習</b>		開講学年：第2学年 開講時期：前期 単位数：2単位 90時間 開講形態：実習 週割当時間：45時間
担当：小池 真由美（専任教員） 会津中央病院、坂下厚生総合病院等で 30年の実務経験		
分野 専門分野 臨地実習		
目的 対象の基本的欲求を把握して、個別に合わせた援助ができる。		
目標 1 基本的欲求の把握ができる。 2 受け持ち患者の基本的欲求に合った援助を行い、評価することができる。		
回数 及び時間	実習内容	方法
90時間	1 患者の基本的欲求に関する情報収集ができる。 2 情報よりアセスメントを行い、問題点を抽出することができる。 3 援助の必要性を理解し、看護技術が実施できる。 4 行った援助を評価し、患者により適した方法を考えることができる。	実習
実習施設 会津中央病院 病棟 町立猪苗代病院 病棟		
成績評価方法 出席状況、実習態度、実習記録などにより総合的に評価する。		
テキスト・参考書 指定しない、各自、関連する文献を活用する。		
その他		

<b>地域・在宅看護論Ⅰ実習</b>		開講学年：第1学年 開講時期：前期 単位数：1単位（45時間） 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験		
分野 専門分野 臨地実習		
実習目的 多様な看護の場や看護の継続性を理解するための土台とする。		
実習目標 地域で暮らす人々の健康と暮らしを支えるための多様な看護の場を理解する。		
日数 及び時間	実習内容	方法
1 (9)	1 各施設についての事前調べ	グループ学習
2 (18)	1 各施設へ出向き、地域の中での施設の特徴・役割を理解する。 方法：1G4～5名 概要説明を受け見学実習する。	見学実習
2 (18)	1 各施設についてまとめ情報を共有する。	G・W 発表
実習施設 会津若松市第5地域包括支援センター 会津中央訪問看護ステーション 会津中央病院居宅介護支援事業 枝雪零苑デイサービスセンター ライフケア鶴賀 枝雪零苑 会津中央病院 健診センター 会津中央病院 なんでも相談室		
成績評価方法 実習に伴う学習、記録、レポート、実習態度を総合的に評価する		

<b>地域・在宅看護論Ⅱ実習</b> 担当：水野 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：2単位（90時間） 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間
分野 専門分野 臨地実習		
<b>実習目的</b> 地域・在宅で生活・療養する人々や家族を理解し、地域・在宅での看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
<b>実習目標</b> 保健福祉事務所実習 機能、役割を理解し、地域で生活する人々の健康保持、増進、疾病予防のための援助を理解する。 地域包括支援センター実習／介護老人保健施設実習／通所介護施設 地域で生活・療養する人々とその家族への援助の方法を学ぶ。 訪問看護ステーション実習 地域・在宅看護の現状と対象について理解する。 地域・在宅看護の役割と援助について理解する。		
日数 及び時間	実 習 内 容	実習施設
1 (9)	1 事業概要 2 予防業務 3 関連機関との連携	保健福祉事務所
5 (45)	1 役割、機能について理解する。 2 地域・在宅への移行に伴う看護の役割について理解する 3 地域・在宅で生活・療養する対象者と家族への援助を理解する。 4 社会資源の活用について理解する。 5 健康の保持増進への支援について理解する。 6 関連機関・多職種連携・協働について理解する。	第5地域包括支援センター  ライフケア鶴賀  枝雪零苑デイサービスセンター
4 (36)	1 機能と役割について理解する。 2 地域・在宅で生活する対象者とその家族に応じた援助の必要性を理解でき看護者とともにできる。 3 社会資源の活用、関係機関・多職種連携・協働について理解する。	会津中央訪問 看護ステーション
実習施設	会津保健福祉事務所 会津若松市第5地域包括支援センター ライフケア鶴賀 枝雪零苑デイサービスセンター 会津中央訪問看護ステーション	
成績評価方法	実習に伴う学習、記録、レポート、実習態度を総合的に評価する	

<b>成人・老年看護学Ⅰ実習</b> 担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験		開講学年：第2学年 開講時期：後期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間
分野 専門分野 臨地実習		
<b>目 的</b> 成人・老年期にある人への根拠に基づいた日常生活への援助の基礎を習得する。		
<b>目 標</b> 1 慢性期にある成人・老年期の患者を理解し、生活上のニーズを把握することができる。 2 患者の健康状態を生活背景、生活習慣との関連から理解し、看護上の問題を明確にできる。 3 必要な看護を、看護過程を用いて考え、実施できる。		
回数 及び時間	実習内容	方法
1 (90)	1. 疾病の慢性的な経過にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程の展開を行う。 2. 成人・老年期の患者の、健康問題の状況に応じた援助を根拠に基づいて考え、実践する。 3. 慢性期の病気とともに生きるための方策を理解し、QOLを維持できるよう援助について考え、実践する。	実習
<b>実習施設</b> 会津中央病院 病棟		
<b>成績評価方法</b> 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。		
<b>テキスト・参考書</b> 指定しない、各自、関連する文献を活用する。		
<b>その他</b>		

<b>成人・老年看護学Ⅱ実習</b>  担当：渡部 裕美子（専任教員） 会津中央病院で8年の実務経験		開講学年：第2学年 開講時期：後期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間
分野 専門分野 臨地実習		
<b>目的</b> 成人老年期にある健康維持及び日常生活行動が困難な人への自立・自律して生活することや「暮らし」を支えるために必要は援助の基本を習得する。		
<b>目標</b> 1 健康維持及び日常生活行動が困難な人および家族の特性について理解できる。 2 健康維持回復や生活機能向上をめざすリハビリ期にある人の自立・自律して生活することの暮らしを支えるための援助が実践できる。 3 健康維持及び日常生活行動が困難な人へおよび家族の自立・自律に向けた教育支援ができる。 4 健康維持及び日常生活行動が困難な人への自立・自律して生活することの暮らしを支える保健・医療・福祉に連携を理解できる。		
回数及び時間	実習内容	方法
1（90）	1. 疾病の慢性的経過やリハビリ期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程を展開させる。 2. 健康維持および日常生活が困難になった人の自立・自律した生活や暮らしに与える影響を学ぶ。 3. 自立・自律して生活することの暮らしを支えるための援助を実践する。 4. 自立・自律して生活することの暮らしを支えるための意思決定の支援について学ぶ。 5. 意思決定に沿った生活を送るために多職種との連携、保健・医療・福祉の連携について学ぶ。 6. 地域で暮らすために、本人・家族の意向に沿った退院後の生活に向けた退院支援について理解できる。	実習
<b>実習施設</b> 会津中央病院 病棟 <b>成績評価方法</b> 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。 <b>テキスト・参考書</b> 指定しない、各自、関連する文献を活用する。 <b>その他</b>		

<b>成人・老年看護学Ⅲ実習</b>  担当：本田めぐみ（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第3学年 開講時期：前期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間
分野 専門分野 臨地実習		
<b>目的</b> 成人老年期にある生命活動が脅かされた状態にある患者を理解し、その生活を支えるための援助の基本を習得できる。		
<b>目標</b> 1 生命活動が脅かされた状態にある患者とその家族について理解できる。 2 周手術期にある患者とその家族について理解できる。 3 救命を必要とする患者、集中治療を必要とする患者とその家族について理解できる。 4 生命活動が脅かされ状態にある患者とその家族の生活を支えるための援助が実践できる。 5 生命活動が脅かされ状態にある患者とその家族の生活を支えるための保健・医療・福祉の連携を理解できる。		
回数及び時間	実習内容	方法
1（90）	1. 生命活動が脅かされた状態にある急性期・周手術期にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程を展開させる。 2. 集中治療室・救急外来・救急センターでの実習を行ない、生命活動が脅かされた状態にある人とその家族の看護について学び、その援助を実践する。 3. 手術を受ける人の手術前から手術後の一連の看護について学び、その援助を実践する。 4. 急性期・周手術期における多職種との連携について学ぶ。 5. 生命活動が脅かされた状態にある人の入院から退院までの継続看護について学ぶ。	実習
<b>実習施設</b> 会津中央病院 病棟 <b>成績評価方法</b> 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。 <b>テキスト・参考書</b> 指定しない、各自、関連する文献を活用する。 <b>その他</b>		

<b>成人・老年看護学Ⅳ実習</b> 担当：堤 千恵専任教員） 福島県立会津総合病院他で32年の 実務経験		開講学年：第3学年 開講時期：前期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
分野 専門分野 臨地実習			
<b>目的</b> 成人老年期にある終末期でケアが必要な患者とそれを支える家族を理解し、患者とその家族のQOLの維持・向上を目指した援助の基本を習得できる。			
<b>目標</b> 1 終末期でケアが必要な患者とそれを支える家族について理解できる。 2 病むこと死と向き合うことを余儀なくされる人に寄り添うことの意義を理解できる。 3 疼痛緩和、QOLの維持・向上を目指した援助について理解できる。 4 終末期における患者とその家族を支えるための保健・医療・福祉と多職種との連携を理解できる。			
回数 及び時間	実習内容		方法
1 (90)	1. 終末期でケアが必要な状態にある成人・老年期の患者を受け持ち、看護過程を展開させる。 2. 病むこと死と向き合うことを余儀なくされる人とその家族に寄り添った看護について学び、実践する。 3. 終末期の倫理的な課題と患者の意思決定の支援について実習の見学やカンファレンスへの参加をとおして学ぶ。 4. 疼痛緩和へのアプローチ方法について全人的ケアから考え援助の実際を学ぶ。 5. 看取りのケア、家族へのグリーフケアについて、保健・医療・福祉と多職種との連携を学ぶ。		実習
<b>実習施設</b> 会津中央病院 病棟			
<b>成績評価方法</b> 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。			
<b>テキスト・参考書</b> 指定しない、各自、関連する文献を活用する。			
<b>その他</b>			

<b>小児看護学Ⅰ実習</b> 担当：高橋 とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験		開講学年：第2学年 開講学期：後期 単位数：1単位（45時間） 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
分野 専門分野 臨地実習			
<b>目的</b> 地域社会で生活を営み成長発達を遂げている小児への関わり方を理解し、発達支援の基本を習得する。			
<b>実習目標</b> <b>支援学校実習</b> 1 様々な障がいのある小児の成長や発達を促す支援の在り方や望ましい環境について学び、小児看護における資質を高めることができる。 2 小児が受けている専門的援助や支援の在り方を学び、一人ひとりの個性を尊重した対応が理解できる。			
<b>保育所実習</b> 1 子どもとの関わりを通し、小児の成長発達・成熟過程を理解できる。 2 子どもが園生活で獲得していく生活習慣や社会性を知り、その援助方法が理解できる。			
日数 及び時間	実習内容		方法 備考
2 (18)	1 小児支援の望ましい環境について知る。 2 様々な障がいのある小児の成長発達を促す援助のあり方を学ぶ。 3 一人ひとりの子どもの個性を尊重した対応の仕方を学ぶ。		支援学校 実習
3 (27)	1 成長発達段階に合わせた日常生活習慣獲得のための援助方法を学ぶ。 2 子ども情緒発達支援のためのコミュニケーション方法を学ぶ。 3 成長発達や社会性発達支援のための遊び方、遊ばせ方を学ぶ。 4 小児が安全に過ごせる環境調整の方法を学ぶ。 5 一人ひとりの子どもの個性を尊重した対応の仕方を学ぶ。		保育所 実習
<b>実習施設</b> 県立会津支援学校 つるが保育園			
<b>成績評価方法</b> 実習に伴う学習、記録、レポート、実習態度を総合的に評価する			
<b>その他</b>			

<b>小児看護学Ⅱ実習</b> 担当：高橋 とも子（専任教員） 会津中央病院で9年の実務経験		開講学年：第3学年 開講学期：前期 単位数：1単位（45時間） 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
分野 専門分野 臨地実習			
目的 小児とその家族の状況をアセスメントし、成長発達段階や病状、治療に応じた基本的な看護の方法を習得する。 実習目標 クリニック実習 1 外来診療を必要とする小児とその家族への看護の方法が理解できる。 病棟実習 1 入院治療を必要とする小児とその家族への経過別看護、主要症状別看護、治療処置別看護の方法が理解できる。 2 患児とその家族の個性を尊重した看護実践ができる。 3 患児とその家族への継続看護（退院指導）が理解できる。			
日数 及び時間	実習内容	方法	備考
2 (18)	1 地域医療を担うクリニック小児科外来の環境と機能を知る。 2 患児の発達状況や症状に応じて診療の補助・介助の方法を学ぶ。 3 外来で行われる治療・処置・検査の介助の方法を学ぶ。 4 小児に適応される補助・助成について知る。	クリニック 実習	
3 (27)	1 患児の成長発達や病状に応じた日常生活の援助方法を学ぶ。 2 治療・検査・処置に必要な看護の基本技術を学ぶ。 3 小児とその家族への日常生活指導、継続看護の方法を学ぶ。	病棟実習	
実習施設 いくつかファミリークリニック 会津中央病院 成績評価方法 実習に伴う学習、記録、レポート、実習態度を総合的に評価する その他			

<b>母性看護学実習</b> 担当：根本 佳奈（専任教員） 会津中央病院で13年の実務経験		開講学年：第3学年 開講時期：前期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
分野 専門分野 臨地実習			
目的 各期の母性および新生児に対して適切な看護活動が実践できる。 目標 1 妊・産・褥婦・新生児の正常な経過を把握した看護計画を立案し、看護実践できる。 2 疾患を持つ妊・産・褥婦及び異常分娩に対する看護について理解する。 3 妊・産・褥婦の受け持ちを通して継続看護を理解する。			
回数 及び時間	実習内容	方法	備考
1(90)	1 受け持ちの妊婦、産婦、褥婦を通し看護を早期に展開、活用する。 2 妊婦、産婦、褥婦を通して正常な経過を理解し看護を実践する。 3 疾患を持った妊婦、産婦、褥婦や異常分娩に対する看護を実践する。 4 妊娠から産褥までの保健指導及び退院指導のあり方を知る。 5 新生児の生理的変化を理解する。	実習	
実習施設 会津中央病院 病棟 成績評価方法 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。 テキスト・参考書 母性看護学（2）母性看護学各論（医学書院） 周産期ケアマニュアル（医学芸術社） その他			

<b>精神看護学実習</b>		開講学年：第3学年 開講時期：前期 単位数：2単位 90時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
担当：村岡 由利枝（専任教員） 会津中央病院他施設等で14年の実務経験			
分野 専門分野 臨地実習			
目的 精神に障害のある対象を理解し、精神看護の実践に必要な基礎的能力を養う			
目標 1 精神に障害のある対象を理解する。 2 精神科病棟の治療環境と看護師の役割を理解する。 3 精神の障害のある対象に対して、必要な看護援助を理解する。 4 精神医療の現状について考え、社会資源の活用について理解する。 5 精神に障害のある対象との関わりを通して、自己洞察できる。			
回数 及び時間	実習内容	方法	備考
1 (90)	1 患者の表情・言動から、行動・対人関係・思考の特性を理解する。 2 既習の知識と対象の行動特性、精神症状を関連づけ理解する。 3 逸脱行動によって起こり得る危険、安全を確保するための施設・環境を学ぶ。 4 薬物療法の目的・期待する効果・副作用を理解する。 5 特殊治療法の適応とその効果を理解し、援助の方法を学ぶ。 6 対象の言動を否定せず、聴くことができ、一貫した態度で接する方法を学ぶ。 7 自己の対象への関わり方の特徴をとらえ、人間関係のあり方を考える。 8 対象の日常生活行動への自立に向けた援助を実践する。 9 家族が対象の障害をどう受け止めているかを認識しながら社会復帰への援助の方法について学ぶ。 10 社会復帰の現状を理解し、患者が活用できる社会資源を知る。	実習	
実習施設 会津西病院メンタルケア			
成績評価方法 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。			
テキスト・参考書 指定しない、各自、関連する文献を活用する。			
その他			

<b>統合実習</b>		開講学年：第3学年 開講時期：後期 単位数：3単位 135時間 開講形態：臨地実習 週割当時間：45時間	
担当：水下 明美（専任教員） 会津中央病院で6年の実務経験			
分野 専門分野 臨地実習			
目的 既習の各実習を元に知識・技術・態度を統合し、看護連続性や継続性を学び、実践能力を身につける			
目標 1 看護管理について学び、保健医療チームにおける看護の役割と機能を理解する。 2 複数を受け持つ実習を通し、自己の知識や技術を統合して連続的に看護場面に適応ができる。 3 コーディネーターの役割と業務を理解する。 4 夜間帯実習を行い看護が24時間通して様々な場面を有していることを理解する。 5 1年生と協同することで自己の成長につなげることができる			
日数 及び時間	実習内容	方法	備考
15 (135) 臨床実習 14日 解剖学実習 1日	1. 複数の患者の受け持ち(多重課題)の経験を通し、報告/連絡/相談の方法や、時間内業務の遂行方法、対象に有った看護技術の選択方法など、看護の継続性・効率性について理解する。 2. コーディネーター業務を経験し、保健医療チームにおける役割と責任について学ぶ。 3.夜間実習を経験し、24時間継続して患者と関わることの意義を理解する。 〔 20:00~翌朝 9:00 〕 仮眠あり 4. 1年生と協同する。(31h) 実習後半の3日半 1年生へOR 半日(4h) 1年生と共に実習 3日(27h)	実習	
	解剖学実習 1日 9h		
実習施設 会津中央病院 病棟 福島医大解剖学講座			
成績評価方法 出席状況、実習態度、実習記録などのより総合的に評価する。			
テキスト・参考書 指定しない、各自、関連する文献を活用する。			
その他			